

平成28年第5回野洲市議会定例会会議録

招集年月日 平成28年12月7日

招集場所 野洲市役所議場

応招議員	1 番 稲垣 誠亮	2 番 北村五十鈴
	3 番 荒川 泰宏	4 番 丸山 敬二
	5 番 岩井智恵子	6 番 高橋 繁夫
	7 番 太田 健一	8 番 野並 享子
	9 番 東郷 正明	10 番 中塚 尚憲
	11 番 上杵 種雄	12 番 市木 一郎
	13 番 山本 剛	14 番 鈴木 市朗
	15 番 矢野 隆行	16 番 梶山 幾世
	17 番 坂口 哲哉	18 番 河野 司
	19 番 立入三千男	20 番 欠 員

不応招議員 なし

出席議員 応招議員に同じ

欠席議員 なし

地方自治法第121条の規定により説明のため出席を求めた者の職氏名

市 長	山仲 善彰	教 育 長	川端 敏男
政策調整部長	寺田 実好	政策調整部政策監 (地域戦略担当)	大藤 良昭
総 務 部 長	遠藤 伊久也	市 民 部 長	上田 裕昌
健康福祉部長	瀬川 俊英	健康福祉部政策監 (高齢者・子育て支援担当)	辻村 博子
都市建設部長	小山 日出夫	環境経済部長	白井 芳治
教 育 部 長	藤池 弘	政策調整部次長	川端 美香
総 務 部 次 長	竹中 宏	広報秘書課長	服部 道和
総 務 課 長	赤坂 悦男		

出席した事務局職員の氏名

事 務 局 長	立入 孝次	事 務 局 次 長	辻 義幸
書 記	吉川 加代子	書 記	佐々木美砂子

議事日程

諸般の報告

第1 会議録署名議員の指名

第2 一般質問

開議 午前9時00分

議事の経過

(再開)

○議長(坂口哲哉君) (午前9時00分) 皆さん、おはようございます。

ただいまから本日の会議を開きます。

日程に入るに先立ち、諸般の報告を行います。

出席議員は、19人全員であります。

次に、本日の議事日程は既に配付をいたしました議事日程のとおりであります。

次に、本日、説明員として出席通知のあった者の職氏名は、昨日と同様であり、配付を省略しましたので、ご了承願います。

(日程第1)

○議長(坂口哲哉君) 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、第5番、岩井智恵子議員、第6番、高橋繁夫議員を指名いたします。

(日程第2)

○議長(坂口哲哉君) 日程第2、昨日に引き続き、一般質問を行います。

発言順位は昨日と同様、一般質問一覧表のとおりであります。

順次、発言を許します。

それでは、通告第7号、第8番、野並享子議員。

○8番(野並享子君) おはようございます。

大きく4点についてお尋ねをいたします。

まず、第1点目、都市計画道路についてお尋ねいたします。

竹生口から東運送を通過して、市三宅方面に新しい道ができました。昔、都市計画道路でしたが、山仲市長になり、塩漬けになっていた一連の都市計画道路が廃止されました。そのうちの1つですが、新しい道が整備されたことによって、市三宅の在所を通過する車が

ふえました。住宅内の道路にでこぼこをつくったり、グリーンベルトを設置したり、30キロの速度制限が設けられたり、7時から9時までの一方通行にしましたが、一方通行の手前でこの在所に入る車があり、住民の方は身の危険を感じておられます。野洲川沿いを三共製薬の跡地までの道路整備が必要ではないかと考えます。一旦廃止した計画道路を復活するのは大変だと考えますが、このままの状況ではいつ事故が起こるのではないかと考えます。

まず第1点目に、都市計画道路を廃止するにあたり、地元自治会からの意見を求められたのかどうかお尋ねいたします。

○議長（坂口哲哉君） 都市建設部長。

○都市建設部長（小山日出夫君） 議員の皆さん、おはようございます。

それでは、野並議員の都市計画道路についての1点目のご質問でございますが、都市計画道路の廃止の際、地元自治会から意見を求めたのかということでございます。ご質問の道路につきましては、昭和47年に滋賀県が決定しました都市計画道路野洲川右岸線のことと思っておりますが、現実的に整備が困難であるなどの理由から、平成22年に全線廃止する都市計画の見直しを行っております。

廃止に際しましては、都市計画決定の手續に従いまして、地域説明会として市民懇談会を平成21年12月に2回開催した他、近隣自治会及び沿道事業所への説明を行っております。

以上、お答えといたします。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 説明はされていたということですが、全部の住民の方々にはなかなかそれは伝わっていない。あそこにはいつか道路ができるというふうに思っておられる方もおられます。ということで、今、いろいろ地元から要望が出されていると思いますが、どのような内容が出されているんでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 都市建設部長。

○都市建設部長（小山日出夫君） それでは、野並議員の2点目のご質問でございますが、地元から要望が出された内容は何かということでございます。野洲川堤防切り下げ後の供用化について、北野学区行政懇談会及び市三宅自治会から過去3年間にわたりご要望いただいております。内容としましては、竹生口交差点の改良工事の結果としまして、市道市三宅竹生線から市三宅市街の生活道路への車両の通り抜けが増加をし、住

環境が悪化することが予測されるために、その緩和策の案としまして、1つは市三宅竹生線の旧三共正門前交差点への延長、接続、もう一つは市三宅竹生線から河川管理道を経て近江富士大橋へ接続する迂回路の構築、この2点の要望が出されたところでございます。

以上、お答えとします。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） とりあえずそういうふうな話を、住民の皆さんからも何とか早く道路をつくってほしいという要望を私も聞いております。そこで、3点目なんですけども、中主方面から国8バイパスまでの道路に結び付けていく道路として、野洲川右岸線の道路建設、右岸線というか、中を走るか、わかりませんけども、そういう道路建設が必要と考えますが、市長の見解を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 野並議員の道路整備についてのご質問にお答えをいたします。

野洲川右岸線、右岸線と言っておられるんですけども、これ、昭和40年代の後半に計画決定をされています。普通計画決定というと、今、野並議員がおっしゃったように、期待と拘束です。そこに線が引いてあるということは地権者とか隣接者はそこに道路ができるということへの協力、便宜を享受できる方は期待であります。

普通は5年、10年で達成すべきものです。昭和40年代の道路がまだできていない。これは野洲とか滋賀県はお得意なんですけども、普通は、やはり計画が最大10年、10数年でできなければ、廃止すべきものであります。野洲川右岸線については、きちっと手続を踏んで廃止をしています。従来から説明していますように、野洲川改修以前の道路計画になっていますから、もう川の中を道路が走るとか、全くとんでもない法線ですて、本当に真剣にやるんだったら、野洲川放水路のときに道路計画もあわせて変えておかないといけません。

その後、新市になってから、通称野洲川右岸線という市道を整備しています。ということとは、もう全く野洲市としては、当初の40年代の野洲川右岸線は整備しないと。あそこに巨費を投じて市道を整備しています、先線のない道路を。そういったことなので、これは国にも要請としていつまでも持っていつてはだめだということなので、手続を踏んで、何か今、住民云々とおっしゃいましたけど、きちっとお知らせをして、ここにおられる方が都市計画審議会の委員であった時期に手続を踏んで廃止をしています、その他の路線も含めて。これをやっておかないと、新しい道路が加えられないわけですね。

今の竹生市三宅線という道路もなぜできたかといいますと、もともと竹生の開発で川田橋からおろしてくる道路、あれがないと開発ができないということで、難航して膠着状態でした。とりあえずその道を確保しようということで、県有地をこれも議会に諮って買った上でやりました。そのときに私は直接ある段階まで知らなかったんですけども、あそこまで道路を付けるんだったら、市三宅の方まで最大限延ばしてほしいと、不法投棄もあるし、何とかということで。先に地域合意ができていました、当時の自治会長とか。それが、いわゆる私にまで協議が来たので、せっかくだからということで、結構課題はあったわけです。都市計画決定を打っていない道路です。そして、底地は県有地。担当部局の交渉の中では県は土地を買いなさいとか、有償で借地だとか言ってきたので、それも話を付けて無償で使えるということにして、可能なところまで地域の要望で延ばしていきました。

先線については、なかなかすぐには補償できませんという前提になっています。それをはっきり確認していますけども、当時の自治会長をはじめ、地域の総意でごみの不法投棄とかということで、あそこまで延ばしているわけです。当然、地域に入るリスクがあるので、交通規制をかけようと、大型は入らない、事業所のところまでしか入らない、そしてから時間規制をしようということでやっていますので、これは、やはりルールを守ってもらうということしかありません。

竹生の開発、あそこの交差点も竹生の開発で課題になっていたセパレートまで一気に解決をしたかったんですけども、そこは構造上無理だということで、結果的に巨大な交差点、ちょっと私たちの思いよりは、県の計画が大きかったので、巨大な交差点になっています。私はあそこは立体交差にするか円形交差点、ラウンドアバウトにしてほしかったんですけども、県がそこまではと言うので、本当はラウンドアバウトにすると、旧の農道も使えていい形になるんですが、先般もちょっと県警には言っておいたんですけども、そうすると、まずあそこの円滑化も図れます。

次の課題は北野コミセンの前を右左折、直進ぐらいに道路をつくるとあそこの道路の渋滞が解消できますので、これは次の課題なんですけれども、県道ですので、県道と市道の交差なので、主体は県道の拡幅なり路線をふやさないといけないので、今、これは提案、要望していますけども、まずそれによって竹生の方から北野の方、またそこを右折して駅の方に行く負荷が減っていくと思っています。

いずれにしても国8までつなげれば幸いなんですけども、国土交通省の所管している野洲川の堤防を使わないといけないとか民地を通らないといけないということなので、私も

思いとしてはできるだけ国8バイパスができれば接続するとか、あるいは少なくとも県道の、いわゆる大津能登川線、近江富士大橋の近くまで接続ができればと考えていますけども、まだ都市計画決定も打っていませんし、すぐにできるかとかということじゃないので、当面はまずは、やはり交通規制をきちっと守ってもらって、朝の7時から9時の一方通行については、きちっと厳守してもらおう。もともとなかった道ですね。便宜は高まったので、使われる方はないよりましということで、きちっと時間を守るとか速度制限を守るという形で使っていただきたい。

これも過去にもご質問があったときに言ったと思うんですけども、市三宅の方にとっても、一方通行で朝は竹生の方にとか、あるいは川田の方にとかへ出れるので、全くマイナスばかりではないので、要するに、今、問題になっているのは、速度制限がかかっているのに速度を無視するとか道が狭いのにスピードを出すとか、そこですので、そのあたりをきちっと公安委員会と協力しながら厳格に対応していただくというふうに考えております。

以上、お答えいたします。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 守られない方が悪いという結果だと思いますが、しかし30キロで走っておられる方なんてほとんどいやはらへんいうて地元の方はおっしゃっていますやっぱり、根本的に解決しようと思えば、市長がおっしゃったように県道大津能登川長浜線のところの近江大橋の近くのところにまで抜いていくということが、何よりも在所の中に車が通過道路として通る車を避けていくという意味では必要ではないかと思うんですが、計画そのものをどういうふうにそしたらしていこうとされているのか、お願いします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 計画はですから、さっき申し上げたように野洲川の堤防の一部を使う、いわゆる河川法の占用の兼用工作物でいけるのか、堤防と兼用しないで河川敷の一部を使うのかとかということですけど、かなり課題はあります。

それと、申し上げておきますけども、今現在、実態として使われているのは、行畑の方に行く場合とか大規模小売店へ行くアクセスです。ですから、大津能登川線につないだとしても、本当に問題の解消になるのかどうか。市三宅の旧の道を通って大規模小売店に行くとか行畑の方に行くという利用も、見ているとありますから、全てがそれで解決できるのかどうか。

あえて言えば、もう一つ言えば、旧の市三宅の道路をきちっと歩道付きのセンターライ

ンの入っている道に都市計画決定を打って、地域のご協力も得ながら立ち退きをしていただいて変えるということもあるので、幾つかの選択肢が私にはあります。それをするとは言っていないけども、抜本的な解決というのはさまざまな手法があると思っています。

それと、市三宅に関して言えば、東部の区画整理事業の中で地域の方は野洲駅北口線は廃止をしてほしいとおっしゃいましたので、これもいろいろそのとき諮りましたが、守山市が廃止をしてもらっては困るということで、あれはまだ残しています。あの道路も、駅から真っすぐ行く道路ですね、今、とまっていますけども、あの道路の接続をしても、今の市三宅竹生線とは交差ができない、高さが全く違いますからという課題があるので、野洲市としては消そうと思ったんですけども、さっき言ったように隣接市の要望で今残しています。

そういったことを含めて、これまで野洲の場合、全然道路計画をきちっとやってきていませんでした。さっきおっしゃった幻の道路を加えては期待感と不安感が交錯していましたので、今、そういった道路は基本的にきちっと整理をしていますから、これから皆さん方と協議しながら道路計画をやっていくべきだと考えていますので、野並議員がぎりぎり市長どうするんやとおっしゃっても、道路という長期にわたる計画については、総合計画の中で土地利用とあわせて計画していくべきもので、間に合わせて今までやってきたツケが今残っているので、今考えていますのは、さっき言ったようにできれば県道につなぐ、あるいは国8の将来への便宜を線路の西側の方にも受けていただく、これは大きくは交渉していますけども、具体的な路線、手法については今後の検討課題というふうに考えております。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 今後の検討課題という、先ほど市長が言われたように計画して5年、10年でできるはずということですから、そしたら、いつ計画決定を出していけるのか、そのスケジュールをお願いします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） ですから、今の市三宅竹生線は地域の方がそこは不法投棄で困る、せめて少しでも延ばしておっしゃったことを受けて、限界がありますよといって、延ばしたわけであって、今のところはあそこについては未定です。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 日程というような、地元のところに説明を行かれたと思いますが、

私は参加しておりませんので、市長さんが将来は県道大津能登川長浜のところに道路を抜いていくということを言われたというふうなことをおっしゃっている住民の方がおられましたので、今回こういう質問をさせていただいたんですけれども、未定というふうなそんな曖昧な部分ではなかったもので、ちょっと意外な結果いうのか、これは住民の皆さんにとっては、不法投棄があつて、道路をちゃんと堤防を下げた道をと、そういう声も聞いていましたし、あの道に関しては何ら問題を言っているわけではないんです。

しかし、本当に夕方なんかは後ろの通りというのか、一番野洲川沿いの道をだ一っともう帰られる通勤の車が本当にたくさんあります。そんなのとか、朝は東運送からきゅっ行って、細い通りをびゅーとこっちに入ってこられるという、もうとまっていますので、時間でとまっていますから、その手前の屯倉神社の前の道を駅の方に向かっていかれるとかいうふうな形で、とりあえず本当に通過の車の量がふえております。住民の方はそれは行き来ができて便利にもなっていますけども、かなりそういう意味では危ない状況になっていますので、これは今、計画が未定ということと言われると、ちょっと住民の皆さんはもっと不安に感じられるんじゃないかというふうに思いますが、もう一度お願いします。

○議長（坂口哲哉君）　市長。

○市長（山仲善彰君）　私は構想は持っているのですが、思いはできればあそこまで延ばしていったので、県道なり国8バイパスにと思っていますけども、まだ計画決定も打っていないものをいつとおっしゃったって、これは未定としか責任を持った答えはできませんので、そのあたり、地元にはあそこに行くときに将来的には延ばしますよということを私はお伝えしています。ですけども、いつやと言われてできるものではないですと。じゃ、国道8号バイパスはいつできるんですかと、私は国体の2年前と言っていますけども、国ははっきりとは約束してくれていません。でも、それを前提に事業をしてくれているわけです。でも、あれはもう既に都市計画決定が平成12年に打たれている。昭和57年に事業化がされている。そういうものです。

今の道はとにかく今の課題解決のためにあそこまで延ばしていったものですから、それをいつですかと言われたら、私の方が議員に聞きたいです。いつ議決していただくんですかと。いつ財源を確保して、いつ都市計画決定を打つかと。だから、責任ある答えとしては、現時点では未定です。ただ、その前にはできるだけ延ばそうという構想は持っていますということを言っています。だから、国土交通省とは河川の利用ができるかどうか事務レベルで詰めていますし、私も話していますし、民地の利用の可能性も探っています。

ですけども、ここで私が平成何１０何年何月にとか、そんなこと言えるはずないので、そういう意味で未定と言っているわけで、決して無責任じゃなくて、責任ある発言だというふうに思っています。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） また県との交渉もしてみたいと思います。

次に、交通安全対策費についてお尋ねをいたします。

市内の交通安全対策について、多くの自治会から要望が出されていると思います。長年要望してきた中北と北のところの県道の通学道路のところに今回ようやく信号機が設置されました。要望してから１０年ぐらいになるんじゃないでしょうか。信号機の設置について、市内で今、何件の要望が出ているのか、お尋ねいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの信号機の設置の要望の件数ですが、本年度は４５件の要望を受け付けておりまして、これは全て守山警察の方に要望を行っているということでございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 今、市内で多くの要望４５件ということですが、今、私が特に聞いていますのが北口線と市三宅小南線の交差点、野洲駅からどんと突き当たったところですが、あそこが小中学校の通学路であって、右折、左折、直進と本当に複雑に車が、バイクが、いろんなものが動いております。交通立ち番の方から信号機の設置を求められていますが、設置の検討はされているのか。それともう一つが竹ヶ丘から川田橋のところに出ていく交差点のところ、あそこにも信号機の設置が求められていますが、どうなっているのか、お尋ねいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） 両箇所とも守山警察署を通じて、県警本部の方に要望をいたしております。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 要望はされても、先ほど中北、北の信号機も１０年ぐらい付かないというのが現実でありますので、特に車のスピードが速くてカーブで車が見えない、急にぱっと車が見えるという状況があります。速度制限をせんとあかんというふうに思うん

ですけれども、この市三宅小南線のカーブのところの速度制限は検討されているのでしょうか、お尋ねいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） 県道２号線と市三宅妙光寺交差点から北野小学校方面へ行く市三宅小南線なんですけど、こちらの速度制限につきましても、今おっしゃっていただきましたように、守山警察の方に要望をいたしているところでございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 速度制限ぐらひは簡単にできるのではないかというふうに。今、河川の工事をするために迂回路がつくられていますので、多分あれ冬場だけだと思いますので、春になったらあの部分がまたもとの道になると思いますので、今、住民の皆さんがそういう声を上げておられるので、まず早急に速度制限をしていただけますようお願いしておきます。

その次、４点目ですが、交差点で右折だまりがあるにもかかわらず、信号機で右折信号がないというところで、例えば和田の交差点のところに右折信号がないために黄色になっても直進してくる車が多く、２台ほどしか右折できないというようなこの交差点の信号機の改良が必要ではないかと思いますが、見解を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） 今、例として出していただきました和田の交差点、ちょうどこちらの前から近江八幡へ行く方向のことやと思われるんですが、そちらについても、矢印信号の設置要望はいたしております。

なお、右折だまりのある交差点に全て矢印信号を設置するという、そういうことではないと思いますので、あくまでもその交通の状況を見て、私どもは要望はいたしますが、公安委員会の方で判断なされているという状況でございます。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） この要望していても、いつから要望されていて、何年要望されていてできないのか。つい先ほどいうのか、ここ２、３年前に要望されたのか、ちょっとそのあたりをお願いします。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） そちらの久野部歩道橋の東交差点については、平成２３年か

ら要望しております。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） ということは5年経ってもまだできないということですか、今、28年ですから。これでは、「要望しています」というて言われても、そしたら優先順位として、行政としては何番目ぐらいの優先順位にされているのか。あそこ、小篠原の道の市役所の前の道のこの車がすごく多いんですよ、朝なんかも。ですから、本当に黄色になってとまるどころか、赤になってもまだ突っ込んでくるというような、そんな状況の道というのは走ってはる人やったらご存知やと思うんですけども、どのぐらいの優先順位で要望してはるんですか。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） 45件を一覧表にしてうちの方から要望していきまして、その中については、どれを先にするかについては県の公安委員会の方でされますので、実際には野洲市から上げている表でいきますと40番目ぐらいになるんですけど、その前から上にはそれぞれの事情で、今おっしゃるような個々の理由で要望を上げていきますので、実際どれを先にするかについては実際の状況を見て判断をされているというのは実態でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） なかなか大変。あとまだ何年経ってもこれやったらできないん違うかというて、私はちょっと今感じたんですけども。本当に県の予算をふやしていただかないことには話にならんので、またこれも県の方に交渉いたします。

次に、5番目、竹ヶ丘から川田橋のところに出るときに守山方面から車が見にくい。ちょっとこれ、私の車のところ、停車線から見たところ。車がちらっと見えますね。これは向こうに守山の方に行く車です。来る車にしたって、あそこからしか見えないんです、停車線ではね。ですから、停車線で見えないから、本当に皆さんはこんな形で停車線よりもっと前に行かないと見えないので、すごい前に出て見て。これ右折しようとしてはる車なんです。こういうふうな状況の中で、守山側ではこういうふうな形でここ改良されているんです。縦の柵じゃなくて、横の柵でそれで低くしてあります。目線。ですから、車が見えていますでしょう。車が見えるんです。こういうふうな形で守山側ではできているんですから、野洲市側の方でも検討をしていく必要があると思うんですけども、どういうふうな形になっていますか、今。

○議長（坂口哲哉君） 都市建設部長。

○都市建設部長（小山日出夫君） それでは、野並議員の５点目のご質問でございますが、川田橋歩道の防護柵についてお答えをさせていただきます。

野洲市側につきましては、平成２５年度の市道市三宅竹生外周線を整備することにあわせまして、歩行者へ通過車両の安全確保について公安委員会と協議を重ねてまいりました。交差点部の隅切りや歩行者だまりを広くする等の安全対策を講じておるところでございます。

これによりまして、川田橋との間に野洲川右岸の管理用堤防道路を含めた空間地が生じておりまして、守山市方面からの車に対しても十分見通しが確保できていると判断しております。

以上、お答えとします。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） この状況の、要はこの空き地があるから、見通しが立っているというふうに言っておられるんですか。けども、実際はここまで出ていかへんかったら、見えないから出ておられるので、ここに空き地があるいうても、かなりしんどいんですね。こっちに空き地があるはずなんですけどね。こっちにもありますけど。ちょっと、やはり守山並みに下げるということを野洲市として要望を出さない限りしてもらえませんので、これでよしとされているのかどうか、お尋ねします。

○議長（坂口哲哉君） 都市建設部長。

○都市建設部長（小山日出夫君） 私も何度か現場の方は十分確認はさせていただいております。それで、実際に車に乗って、視認性等も確認をしておるところでございますが、何ら支障なく、車の確認はできておりました。写真も撮って確認しておりますが、確かに停止線から撮りますと、どうしても縦格子が気になる部分はあるんですが、確認できないとまでは言えない状況やと判断しております。

それと、停止線で一旦停止をして安全確認をして、そのまま合流するのではなくて、停止線は合流部分から５メートル引き下がったところでございますので、当然停止線で第１回目の安全確認をした後に、合流する前、第２回目のさらに安全確認をしていただいて、合流していただくというのが通常の交通の流れというふうに判断しておりますので、特に対策は今のところ必要ないと、このように判断しております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） となると、やはり信号機の設置が必要やと思います。車がとにかくいっぱい通れない、動けないということで、お互い車が突っ込んでくるというような状況になっていますので、そういう要望が市民の中から出ておりますので、こういう現状やということで検討もしていただきたいというふうに思います。

次に、障がい者のバス代の無料化の復活について質問いたします。

平成２２年、２３年に集中改革プランによって、市内巡回バスの２コインの２００円の有料化が実施されました。そのとき７５歳以上や障がい者の方が無料から有料になりました。遠くの方は一律の２００円になり、安くなった方もありますが、高齢者や障がい者の方は無料から有料化になりました。リーマン・ショックから持ち直し、税収もふえています。こうした中で、障がい者のバス代は無料にすべきではないかと考えます。

年間約６００万円の収入がありますが、このうち障がい者の方は何人利用され、幾らの収入になっているのか、お尋ねをいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） コミュニティーバスの障がい者の利用人数及び収入ということでございます。障がいをお持ちの方及びその介護者等の運賃なんですけれども、大人１００円、それから小学生５０円となっていてまして、人数の方ですが、大人７，５５１名で７５万５，１００円、そして小学生の方２７名で１，３５０円、合わせて７５万６，４５０円の収入ということでございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 財政が好転している自治体で、野洲市と同様に有料化をしたまちがあります。障がい者の料金を有料にしたまちが無料にしたというまちがあります。障害者自立支援法というのができて、本当に自立支援じゃなくて、自立阻害法と違うかと言われるぐらいの内容でありまして、食費、居住費という形で本人負担がふえて、作業所からもらえるわずかな工賃よりも払わんならんという、負担せんなんというような、そういう状況の方もおられます。さらに、巡回バスがバス代が要するという状況では自立支援と言いながら、支援になっていない状況であります。せめて、障がい者の方のバス代は無料にすべきだと思いますが、見解を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） 障がいをお持ちの方のコミバスの無料化についてでございます。

すが、野洲市のコミュニティーバスの運行は依然年間600万円から2,800万円の行政から持ち出し―収入、入りを差し引いた額ですが―を必要とする中にありまして、地域の公共交通として行政が守っていかなければならない重要な施策ということで位置付けておりますが、高齢者や障がいをお持ちの方について、全く利用しない人や利用できない人もいらっしゃいますので、この方々との中での公平性の観点でありますとか受益者負担の適正化の観点で通常料金の半額という形でさせていただいております、これは妥当な金額設定であると考えております。

障がいをお持ちの方、全てを無料にするということにつきましては、一部の方にとっては社会参加への意欲をそぐことにもなりかねませんし、移動のための障がいをお持ちの方への助成サービスとしましては、自動車の燃料費及び福祉タクシー運賃助成事業や精神障がい者支援施設等通所交通費補助金など、移動のための支援措置もありまして、それとあわせてコミュニティーバスの無料化をすることについては考えてはおりません。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） いろいろ施策があるということですが、先ほどお金としては75万円余りの金額です。野洲財政調整基金は28年度で15億7,500万円あるんですね。こういうふうな形で税金の中の75万円というたら、できない額ではないなというふうに私は思うんです。公平性と言われた、私が先ほど言いましたように、障がい者自立支援じゃなくて、自立阻害法になっているような今の中で、自分が一生懸命作業所に行ったら行っただけお金を払わんならんという、本当にひどい状況になっていますから。ですから、せめてバス代ぐらい無料にしてあげようというのが、多分他のまちの有料化にされたところが障がい者の方だけ無料にされたという実態があるように、やはり支援をしていくという立場に立っての私は展開やというふうに思うんですけれども、そういうあたりはどういうふうに思われますか。

○議長（坂口哲哉君） 市民部長。

○市民部長（上田裕昌君） 障害者自立支援法については、ちょっと私は担当外なので、言うことはできませんけれども、基本的にはコミュニティーバスの施策につきましては、今申しましたタクシー利用助成金とか通所施設の交通費補助金などと同じように、移動のための支援ということになります。補助金としては支給はしておりますが、コミュニティーバスに関しましては、減額というか減免をしているんですけれども、実態としてはその移

動のための経費の一部を公費で助成するということでございまして、これは他の制度と同様だと思っています。他の制度を見させていただいても、やはり経費の一部を支援するというでございしますので、コミュニティーバスも同じような形で制度を設計してございます。

なお、さらに言えば、他の制度につきましては、限度額がありまして、例えば福祉タクシーでしたら５００円を何枚とか、移動でしたら一月幾らまでというのがあると思うんですけども、コミュニティーバスに関しましては、その上限の設定はなくて、使っただけの半分の支援させていただいている、そういうことになりますので、この制度としては妥当なものであるというふうに認識しております。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） ぜひ私は検討していただきたいと思います。

次に移ります。

介護保険の要支援１、２に対する対応について質問をいたします。

来年４月から要支援１、２が介護保険から外されるということがありますが、野洲市においては、これまで受けておられた方の後退はないと答弁を今までされてきました。民間施設での緩和制度で対応をしてもらわなければならないんじゃないでしょうか。実質受け入れてもらえない状況が予想されると思いますが、現在要支援１、２の方で訪問介護、デイサービスなどを利用されているのは何人なのか、お尋ねをいたします。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 議員の皆さん、おはようございます。

それでは、野並議員の要支援１、２に対する対応についての１点目の要支援１、２の方で訪問介護、デイサービスなどを利用されている方の人数でございしますが、要支援１、２の方で平成２８年１０月時点で訪問介護を利用されている方は６９人、デイサービスを利用されている方は２０５人となっております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 特に日常生活を支援するということで、掃除、洗濯、買い物などを利用されている人は何人おられて、その方が２９年度ではどういう状況になっていくのか、また利用者の推移、過去の実態などを踏まえて、どのように予想されるのか、お尋ね

いたします。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） それでは、２点目についてお答えをさせていただきます。

まず、日常生活を支援する掃除、洗濯、買い物などを利用する方の人数でございますけれども、先ほど申し上げました訪問介護を利用されている６９人の方全てが掃除、洗濯、買い物など、日常生活の支援を受けておられるところとなっております。

次に、この方々が２９年度はどのような状況になるのかということでございますけれども、要支援１、２の方は、平成２９年度、介護認定期間が終了するまでは現行どおりの訪問介護を利用いただきます。介護認定期間が終了した時点で総合事業に移行し、介護予防ケアマネジメントにより適切なサービスにつなぎたいと考えております。専門職のヘルパーによる援助が必要な場合は現行どおりの訪問介護をご利用いただくこととなっております。

次に、利用者の推移は過去の実態を踏まえ、どのように予想されるかというご質問でございますけれども、訪問介護の利用者数は、これまで横ばいで推移してきておるところでございますけれども、今後は高齢者人口の増加に伴いまして、増加することを予想しておるところでございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） ここ、これから住民サービスに移行をするというふうな形になっていくんですけども、総合事業というのは。市としては、どういうふうにしようとされているのか、答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 今のこのサービスにつきましては、これからの総合事業の実施ということで、それぞれこれも現行どおりのサービスでありますとか緩和によるサービス等ございます。これもしっかりケアマネジメントに基づきまして、その方に見合ったサービスにつないでいきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 国の方でガイドラインが出されておりました、現行の訪問介護サ

ービスに相当するサービス、指定事業者、2つ目が緩和基準に基づく訪問型、通所型サービス、指定事業者または委託、3つ目がボランティアなど、訪問型、通所型サービスB、補助という形と4点目は保健師などによる従来の2次予防事業担当、サービスC、直営委託補助というふうな形でサービスの事業の類型が出されているんですけども、どういうふうな形で、比率といいたいでしょうか、どういうふうな形をされるのでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 今の総合事業に向けまして、ただいまおっしゃっていただいていますように、現行どおりのサービスでありますとか多様なサービスのことを言っていると思うんですけども、比率ということについては、何が何%ということまでは今現在、出ておりませんが、例えば先ほど申し上げました訪問介護、デイサービスをされている方の人数から大体比率で考えますと、現行どおりのサービスをご利用いただく方を想定しておりますのが大体訪問介護ですと4割、緩和したサービスを利用されるであろうという方が6割、通所型につきましては、現行どおりが3割、緩和したサービスをご利用いただくであろうという方が7割というような想定をしておるんですけども、このような形でサービス、今、総合事業に変わっていく中で、先ほど申し上げましたように適切な介護部の介護マネジメントによりまして、サービスにつないでいきたいと考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） そうすると、ボランティアなどによるとかというふうなのとか、保健師などの従来型の2次予防担当というふうな直営委託補助というふうなところ辺はないんですか。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） まだ具体的にそのサービス、ただいま野並議員がおっしゃっていただいておりますのは、訪問型サービスB、住民主体による支援でありますとか、短期集中型サービスのような内容のことを言っていると思うんですけども、具体的に、今申し上げました緩和のサービスを受けていただく方を多様なサービスでどの程度の振り分けをするということまでは今現在、割合としては出ささせていただいておりません。そして、サービスの内容につきましても、例えば訪問型でありますとか通所型のサービスBにつきましては、今現在、生活支援体制整備事業を実施することによりま

して、その辺の内容について、今後のあり方についてを住民主体のサービスの展開に向けまして協議を進めていく中で、具体的に進めていきたいと考えておりますので、ちょっと割合については、まだ今現在のところ、どこが、何が何割というぐあいにちょっとお伝えできないということですのでよろしくお願いしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） この総合支援、総合事業という形になるにあたって、近くの低価格サービスというのとボランティアによるサービスというのと短期間限定のサービスという3つの類型があるんですけども、この短期間限定のサービスだと、1カ月とか3カ月とか半年とかいう形で卒業、前も私が質問して、まだ必要なのに卒業ということで、卒所証書をくれはるというそういうまちが、この総合事業に移行したところでそういう町が出てきているという、短期集中型C型ですね、これでそういう状況が出ているということがあるんですけど、野洲はどういうふうな形になるんですか。

○議長（坂口哲哉君） ちょっと暫時休憩です。

（午前9時53分 休憩）

（午前9時53分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 例えば、訪問型のサービスCということになりますと、これも介護予防ケアマネジメントに基づきまして、専門職が利用者宅を訪問した生活状況に合った生活動作改善指導等を実施し、できるだけ自立した日常生活を送っていただくよう支援するというような形で、今現在は考えておるんですけども、今おっしゃっていただいておりますような短期集中型のサービスの展開のあり方について、今現在、具体的に野並議員がおっしゃっていただいている、どういうふうな形になるかということではできるだけ利用いただいている方に適切にサービスできるような形では考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 次、3点目の要支援1、2に対応する総合事業は、民間施設において無資格、ボランティアなどで対応する緩和制度などで利用料金が決められます。また、自治体で決められることになっていますが、これまでと対比すると、どのような状況なの

か、ご答弁願います。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） ３点目の総合事業の状況についてというご質問であろうかと思うんですけども、総合事業は、要支援者等の多様な生活ニーズに対応するため、全国一律の基準や単価により提供されていた介護予防給付サービスのうち、訪問介護、通所介護を市町村が実施する総合事業に移行し、これまでのサービスに加えまして、住民県等が参画するような多様なサービスを総合的に提供可能な仕組みとなっておるところでございます。

野洲市では、平成２９年４月からの要支援１、２の方に対する介護予防訪問介護、介護予防通所介護に対する総合事業の構成につきましては、訪問型サービス、通所型サービスのどちらにつきましても、現行相当のサービスの他に、緩和した基準によるサービスの導入を検討しております。市内の事業者にも個別に説明をさせていただいているところでございます。

その人の心身の状況等に応じて、その選択に基づき、適切な事業が包括的かつ効果的に提供されるよう適切な介護予防ケアマネジメントを行うことによって、現行相当のサービスや緩和した基準によるサービスの利用につなげたいと考えております。

また、先ほど申し上げましたように、それぞれ多様な高齢者の生活支援ニーズに応えることができるよう、地域の住民やボランティア、民間企業など、多様な主体による生活支援サービスの支援体制を構築するため、生活支援体制整備事業を進めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 金額的な状況を教えてほしかったんですけども、社会保障審議会の介護保険部会、平成２８年１０月１２日の軽度者への支援のあり方というのが出されておまして、これは今、要支援の部分ではないんですけども、その２７ページに金額が出されております。生活援助２５分から４５分未満で大体１，８７４円、１割負担ですから１８７円というのと、民間家事代行サービスというのが１時間で交通費別で一番安い生活協同組合でも９２５円という状況になっておりますので、かなり金額的に差があります。今言われた民間も活用しとか生活支援体制でというふうに言われるんですけども、こういった金額が自治体で決められるということになっているので、野洲ではどういうふうにな

れるんですか。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） まず、緩和した基準によるサービス事業の提供、この報酬額の算定につきましては、今も野並議員がおっしゃっておりますように市において設定するということになっておるんですけれども、これについては近隣自治体の報酬単価や近隣の状況であったり、事業者の意見を聞きながら設定してまいりたいと考えております。

そして、今おっしゃっていただいておりますのは、住民主体のサービス、ボランティアであったり、協同組合等のサービスを言われているかと思うんですけれども、これにつきましては、補助金によって事業を展開いただくということになろうと思います。このことにつきましても、どのような内容にどのような補助を、どのぐらいの金額の補助を出すかとか、その辺につきましては、今現在、この時点では決定をしておりませんでして、先ほども申し上げました生活支援体制整備事業を進める中において、どのようなサービスをしていただくにあたってはどのぐらいの補助とか、そういうことについて検討してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 4月から実施されるんですね。今まだ検討という状況で、毎月毎月ケアマネが来月のをどういうふうにしますというふうなことで、この介護保険が導入された時点においても、全部やったら、もう自分の自己負担が1万円を超えるし、これやめる、あれやめるというふうな感じで財布と相談しながらやってはるというのが今、現実です。ですから、こんな形で金額が民間の家事代行で1時間で一番安い生活協同組合でも925円ということになると、そんな毎日毎日来てもらわなければならない問題があると費用がどんどんかさんでいくということで、結局、本当に大変な負担になるので、ここら辺の設定は、やっぱり今の生活援助の187円、これ45分未満ですので、いうふうな低額で利用できるような状況にならないとだめだと思うんですけど、そこら辺あたりはどういうところまでいこうと思っておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） まず、緩和した基準によるサービスにつきましては、

やはり現行どおりのサービスよりもいろいろ人員基準が緩和されておりますので、それに見合った報酬単価を考えておりますので、利用いただくにあたっても現行どおりのサービスよりも安い中で利用いただけるというふうな形を考えております。

そして、住民主体による支援等につきましては、今現在、検討しておるというふうなお話をさせていただいておりますけれども、これもまた早急に努めてまいりたいと思いますし、今考えております現行どおりでありますとか緩和した基準によるサービス、また短期集中型サービス等によりまして、できるだけ要支援１、２の方の適切な充実した日常生活を送っていただくようなことの支援も含めまして、支援に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○８番（野並享子君） 国では利用の上限を決めており、水際で排除することが必要となってくるのではないかと思います。２８年度は猶予期間になっていますが、２９年度で体制整備事業の経過措置が終了して、３０年に向けての対応として、国の上限以上の利用者があれば市として上乗せなどを考えておられるのか、お尋ねいたします。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） ４点目の３０年度に向けて、国の上限以上の利用者があった場合の市の対応についてお答えをさせていただきます。

総合事業は高齢者人口の伸び率により算定された額の範囲内で事業を運営することと国で定められておるところでございます。

平成２９年度は国で定められる範囲内での事業運営を見込んでおります。まずは、総合事業の対象となる方の介護予防、ケアマネジメント等を的確に行い、その方に適したサービスを利用いただくこと、いきいき１００歳体操等、介護予防活動に参加していただくことなどによりまして、できるだけ要支援、要介護状態にならず、心身の機能を維持できるように事業実施に努めてまいりたいと考えております。平成２９年度は枠の範囲内で事業を実施できると見込んでおるところでございます。平成３０年度に向けましては、効果的、効率的な事業の整備実施に努めまして、上限の範囲内での事業の実施をしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○ 8 番（野並享子君） 国の上限というのが 75 歳以上の後期高齢者の伸び率しか増加率を認めないということになっていますね。総合事業に移行して 2、3 年でこの上限を超えてしまうことになるのではないかというふうに思います。この事業開始の前年度の予防給付プラス介護総額掛ける 75 歳以上の高齢者の伸びということで、15 年から 17 年は 10%の特例措置があったと思うんですけども、30 年からはそういうふうな状況で計算をされていきますので、これ、そうすると、私が先ほど言ったように水際で切っていく、窓口で切っていくというのが総合事業に移行されたところで行われています。

窓口で要支援認定を省略をしていくということで、窓口チェックリストというのをつくって、認定するのか認定しないひんのかという、そこまで行かない、もう手前で、あっ、あなたはだめですよという形で要支援 1、2 を外していくという、そういうことが実際行われているんですけども、野洲市では、そしたら上限の上乗せ、そういうふうなこともしないということであるならば、国は蹴ってくるんですから、利用者は高齢化と共にふえていくと思いますので、ですから、そうすると水際で排除しないとだめだという、そういうのが出てくると思うんですけど、どうされるんですか。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 今、野並議員がおっしゃっております水際で排除ということは一切考えておりません。市の 1 つの上乗せのことをおっしゃっていただいておりますけれども、現時点では、上乗せということは想定はできないということでお答えをさせていただきます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○ 8 番（野並享子君） 国が上限額を決めてくるわけですから、市として、それよりも、今、先ほど聞いた訪問介護 69 人、デイサービス 205 人というのは 28 年度の状況で、これから徐々に増加をするということを見込んでおられるということですから、当然、上限額を超えていくのではないかというふうに思うんですけども、それはしないということになって、水際の排除もしないということになって、そしたら市として持ち出しのお金を出してこないと帳尻が合わないんですけども。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 上乗せのことについていろいろご意見をいただいておりますけれども、現時点では、やはり効率的、効果的な事業を展開するというに

市としては努めてまいるということをご第1点として考えておりまして、その予算的なことにつきましては、できるだけそういうことがないように努めてまいりたいという考えのみしか今現在はお答えできないということでご理解いただきたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 必ず数年先には訪れる問題やというふうに思います。

最後に、介護保険全体が改悪され、利用の制限や利用料の負担増などが検討されています。地方自治体として、国に意見を出すべきだと思いますが、どのような行動をとっておられるのか、ご答弁願います。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 5点目の介護保険全体が改悪され、地方自治体としてどのような行動をとっているのかというご質問についてお答えをいたします。

国においては、今後高齢化の進展や負担能力に応じた負担、介護保険制度の持続可能性の確保の観点から、制度設計の議論がされていると認識しておるところでございます。現状では国の動向について注視しておるという状況でございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 注視だけしていただいていたんでは、ちょっと大変な事態になると思います。今、計画されている、いつになるかわかりませんが、今、国会で出ている内容もあります。介護保険料の要介護3以上しか利用できないようにしていくとか、入所に関して要介護3以上しかあかんとか、また生活援助、福祉用具、住宅改修、これを自費で保険から外していくとか、また利用者負担は原則2割にしていくとか、預貯金があれば3割負担にしていくとかいうのが今計画されていていっている中身だというふうに思うんですが、これをそのまま注視してもらっていたのでは私はちょっと大変だと思うんですが、この認識はどう思っておられますでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 国においては、今おっしゃっていただいておりますような議論をされておるということは認識しております。ただしかし、現状においてどう動くのかということもどうするというとも言えない状況でございますので、あくまでも国の動向というのは、やはりしっかりと見極めた中で市としてどうやっていくのかということを考えていくのが必ず必要なことであろうというふうに認識しております。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 何で私がこの要支援1、2の問題、来年4月から実施の問題で言うのかといいますと、この総合事業の狙いが厚労省にあります。そういうのは端々に出てきています。要は、お金がいっぱいかかり過ぎているということで、高齢者自身にボランティアとして働いてもらい、さらに団塊の世代が介護する側に回って、介護のことを考えてもらうことができるから、介護労働者の確保を高齢者でしていくようにというのがボランティアのところ辺で出てきています。

それと、サービスを購入する価値観の変革をしていく必要があると。1割負担でなくてもサービスを受けることという形で、今やったら1割で負担をしてサービスを受けるというのが当たり前の介護保険ということを、その感覚を当たり前でなくもうちょっと高うてもサービスが受けられるというふうな、そういうことにしていく。高齢者自身が介護保険制度に甘えるのではなく、自助、自分のことは自分でお金で買っているという、そういう意識を芽生えさせていくとか、そういうことを考えていまして、それと要支援者の部分から今度は要介護1、2を外していく。要介護1、2の方の生活援助、買い物とか、さまざまな、今やられている要支援1、2でされているような軽度な、そういうふうな部分をこれを全て総合事業に移行をしていくという狙いがあるからこの問題が非常に要支援1、2だけの問題ではなく、要介護1、2といえ、もう全体の6割、7割の方が使っているんですよ。そういうことが含まれていますので、私はこの問題を取り上げているんですけど、その認識はありますでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 健康福祉部政策監。

○健康福祉部政策監（辻村博子君） 国の方ではいろいろ議論されているという、先ほど申しあげましたようにということはございます。ただ、本当に市としては、国が進めようとしておりますその施策に基づきまして、できるだけ市としてよりよき方向に支援すべき人たちのニーズであったり、サービスのあり方いうことをしっかりと見極めた中で施策を推進していくということで今現在は考えておるところでございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 野並議員。

○8番（野並享子君） 国の施策にそのまま流れていったのではどんどんと本当に大変な事態になりますので、よろしくお願いします。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩をいたします。１０時３０分から再開をいたします。

（午前１０時１３分 休憩）

（午前１０時３０分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、通告第８号、第７番、太田健一議員。

○７番（太田健一君） それでは、一般質問を行います。大きく２点について質問させていただきます。

まず、１点目ですが、小学校のエアコン室外機について質問させていただきます。まず、市内の全小中学校に、エアコンの設置が以前全ての学校に対してされていましたが、その完了した時期をまず伺いたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） 議員の皆様、改めておはようございます。

それでは、太田議員の小学校のエアコン室外機についての１点目、市内の全小中学校のエアコン設置完了時期についてお答えをします。

普通教室への設置につきましては、野洲小学校、これは平成１６年建築当時に付けております。それ以外の学校につきましては、平成２２年度から２３年度にかけて設置しております。

以上、お答えとさせていただきます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○７番（太田健一君） 今のご答弁どおり、学校施設に対してのエアコン設置というのは後付けということでされたわけですけど、そのエアコンにはもちろん室外機が要るので、しかも学校施設の場合は巨大な、大きな事業用の室外機となると思いますが、その設置場所、各学校でまた違うかもしれませんが、その設置場所の根拠というのをお聞きしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） エアコン設置場所の根拠についてでございます。今、太田議員からございましたように、既存校舎にエアコンを設置した校舎がほとんどでございます。配管や機器の規模等によりまして、敷地内における効率的な設置可能な場所を検討した上で進めてきたものでございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） なぜこの根拠をお聞きしたかといいますと、学校のエアコンは先ほども僕は申しましたが、業務用のサイズであって、サイズや規模もかなり大きいですし、学校なので、数量もかなり多いということが想定できます。その設置に対しての根拠を聞いたのは、要はそのエアコン室外機を置いた場合のその場所によっては、エアコンが稼働時の音が近隣住民に方々に対して騒音問題になるのではないかとすることは想定されてなかったのかどうかということも含めてちょっとお聞きしたかったので、もう一度ご答弁をお願いします。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） それでは、稼働時に近隣の住民の方に対しての騒音問題になることかを想定したかということでもよろしゅうございますかね。エアコンの設置時におきましては、室外機が学校敷地境界から離れているということもありましたので、それと将来の学校周辺における住宅開発計画までをちょっと想定はできておりませんでしたのが現状でございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） 今、民家と離れているためということであつたんですが、設置された全小中学校でのこのエアコン室外機の騒音被害の苦情というのがこれまでなかったのかどうかをお伺いします。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） 現状、中学校のエアコン室外機の騒音の被害の苦情の有無ということでございます。現在、祇王小学校の付近において新たに住宅開発されて住民の方から騒音に対する苦情があるということを学校から聞いておりまして、この騒音に対する苦情をおっしゃられている方には教育委員会においてお話をしたところ、今後改修等の場合に騒音の対応を行うことでご了解をいただいたという件がございました。

なお、その学校につきましても、現在、可能な限り騒音を抑える配慮をいただいているところでございます。

今申し上げました祇王小学校以外の小中学校からは各学校の児童・生徒の方、あるいは周辺の住民の方からも騒音に対する苦情は今まで聞いておりません。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） 今、部長の方から祇王小学校の前の新たな新興住宅の方からの苦情ということの答弁があつたんですけど、私もその件を直接聞いていまして、他の議員の

方々もその経緯を調べていないので、ちょっと簡単にその経緯を説明させていただきますと、現場としては祇王小学校の真ん前にその住宅が道路を挟んであるわけですね。その祇王小学校側の校舎の横に大きな室外機が何個か、1つだけではなくてその面だけでも4つぐらいあります。今年の年明けの冬時期に教育委員会に対してその住民の方が問い合わせられたそうですが、そのエアコンの騒音に対して前例がないということと、例えばエアコンの室外機をどけるとなると費用が大きくなるということから不可能というような返事をもらったと。

その次に、本人が納得されていないので、県の方に問い合わせられました。市の環境課で騒音を調べてもらった方がいいというアドバイスを県からいただいて、そのことで市に動いてもらって騒音を夏ごろに測定されました。すると、その騒音が基準値を超えているということであったので、それを教育委員会に情報として伝えるということです。ちょうどその時期に僕もこの話をちょっと相談を受けたので、対応したんですが、当時、部長とちょっとお話はさせてもらったんですけど、市長の方にもその話が何や伝わって、市長も現場を見られて、騒音の音も実際——僕が聞いた話ですね——騒音の音も低音がすごく響いているということで、基準も超えているのであったら、何かしらの対応をせなあかんという指示を出したということを聞きました。

仮にその後のやりとりの中でエアコン室外機を移設するとしても、個別ではなくて、1個だけどけるといふわけにいかないもので、全部まとめて行う必要があると。となると、金額的にもかなり大きな額がかかるので、予算的にはすぐには行えないので、その方策を検討中というようなことでした。

現状は先ほどもご答の中にありましたけど、今の現状はそのままであって、例えばPTAの会議であったり、期末の通知簿作成のために学校の先生なりが夜の7時、8時、要は昼間だけではなくて夜の時間ぐらまでエアコンが稼働していたり、平日だけでなく土日教職員の方が仕事のために学校に行ったときにエアコンを使ったりしているということで、平日、土日関係なく、夜もという感じで動いていたので、そのことに関して、また学校側に伝えたら、先ほど部長が答弁されていましたが、配慮してもらって、なるべく遅い時間であったり、土日は使わないようにというような対応をされているということでした。

そこで、5点目の質問になるんですけど、この騒音の基準値というのはそもそもどのぐらいのレベルの数値になるのかをお聞きしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） 野洲市生活環境を守り育てる条例では、午前８時から午後６時までの間、昼間の時間帯の区分でございますけれども、騒音規制基準は５５デシベル以下となっております。さらに、学校敷地内の周辺、おおむね５０メートルの区域は５デシベルを減じた値となりまして、５０デシベル以下となっております。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○７番（太田健一君） ということは、この祇王小学校のエアコン室外機の騒音の基準値を超えていたということですが、どれぐらいの数値になっていたんですかね。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） 祇王小学校のこのエアコン室外機の騒音基準の値でございますけれども、環境課において簡易検査をされたところ、稼働時の午後２時ごろの時間帯における測定数値としまして、５１デシベルから６５デシベルの間を示しておりました。

なお、文部科学省が定めております学校環境衛生基準に基づく定期検査を教育委員会では毎年実施をしております。本年度実施の定期検査におきましては、基準値以下でございますが、授業に支障がある状態ではないというご報告もいただいておりますが、ちょっと付け加えさせていただきます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○７番（太田健一君） それでは、このエアコン室外機の騒音に対しての対策として、先ほど最初の答弁で言われていましたが、学校改修のときに行うような方向で、地元の方にも了解をしてもらったということですが、具体的にどのように検討をされているのか、その方策であったり、事業費であったり、その時期、いつごろというのを考えておられるのかをお聞きしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） この対策等につきましては、これは騒音苦情ということでございますので、個々に対応させていただきたいと考えてございますけれども、先ほど申し上げましたように基準値を上回っている実態がございますので、それを改善する必要があるかと考えてございます。その場合、一応、子どもたちの学習環境も守らなあかんという側面と、それから学校周辺にお住まいの方に対する配慮といいますか、それを両方あわせてする必要があるのかなというふうに考えてございます。一応、防音柵といいますか、そういうものを設ける方法もあるかなというふうには考えてございますけれども、それで果た

して騒音の値を確実に落とす、それより低い値になるかということは現状まだ調べて、聞いておりませんので、そういうこともあわせ持ちまして、検討をさらに加えていきたいと考えてございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） ということは、時期に関してはまだ全然決まっていないということですね。今、防音柵ということ言われていたんですけど、例えば費用の問題が一番大きいんだと思うんですね。僕が単純に考えたのは、例えば移設をする場合であったとしたら、今、防護柵と言っていましたけど、する場合に、スペース的な問題もあると思うので、例えば市役所であれば屋上に室外機がありますね。だから、学校の施設の屋上にスペースがあるならそこへ移設、それも値段的に、金額的にかかるのかなという気はするんですけど。

もう一つは防護柵という対応の仕方、部長も言われていましたけど、どれぐらいそれを防げるのかということも課題だと思うんですけど。

もう一つとしては、個々の対応をされるということであったんですけど、逆の発想というか、学校側の室外機の音を防ぐのではなくて、近隣の住民の住宅に対する防音の補助金を出すなり、何かそういったようなやり方で住んでいる方の騒音被害ということを防ぐということも1つの方策かなと思うんですけど、そこら辺に関してはどのように考えられますかね。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） まず、やっぱり物理的な問題が、この先やる必要があるのかなと思います。あと、学校の方にはちょっと夜間の使用とか、おっしゃっていただきましたけども、うちの方からは子どもたちがいる時間帯ということでまず学校の方にはお願いをしているところでございますし、その辺の徹底もしてまいりたいなというふうに考えてございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） この時期の関係を聞いていると、平成22年から23年度に設置をエアコンはされたということで、この祇王学区の住宅はその以前からもう完了していたのか、そのエアコンを設置した後に住宅ができたのかと、そこの時間的な関係がちょっとわかれば教えてもらいたいんですけど。

○議長（坂口哲哉君） 教育部長。

○教育部長（藤池 弘君） 私ら市が調べました関係でございますと、この苦情をおっしゃっている方はエアコンが設置された後に住まわれている方というふうに認識をしております。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） こうした学校の施設、これ学校の問題だけでなく、例えば工場があるとか、工場がもともとあって、そのの周りは畑や田んぼばかりだったのにそこに後から住民の方が移り住んで、工場の騒音がうるさいと言われても工場側は困るみたいなこともあるので、なかなかそもそもこのエアコンが設置された後で住民の方がそこに移り住まわれてということで、学校側としてはというものもあると思いますけど、先ほど部長が言われていたとおり、近隣の住民の方への配慮というのはもちろん重要なことですし、そもそも最初お聞きしたエアコンを設置するときに、学校に施設するときに民家との距離であったり、その辺の容量の機械が置かれるということはわかっていたわけですから、専門の業者がしかも設置をしている、素人ではないんですから、どれぐらいの音が出るかとか、騒音などの懸念ということがあってしかるべきだったのかとそもそも思うので、他の学校は周りに住宅街がないので、それは問題がなかったと思うんですけど、今、祇王小学校はすぐ横にもう既に開発は進んでいたんで、そこにもともと住んでおられた方もいられますし、僕も何軒かお聞きしたんですよ、そのの前へ。たら、確かにうるさいけど、なかなか学校でのことでもあるので、我慢をされている。そこでうまくやりくりしていかなあかんということも言われていたんで、お互い配慮し合っているとこもあるんですけど、いろいろ敏感な方もおられるので、そのことによって、子育て世代の人であれば、昼間でも、やっぱり家にいたりとか、有する時間もあるので、働いている人は昼間いないから、夜だけなので、そんなに騒音に関しては気にしない方もいると思うんですけど。だから、そこら辺の点をちょっと配慮してもらって、今後に対応してもらって、具体的にどうするかというのは今の時点ではお答えできないということだったので、そこら辺はしっかり住民の方々、その方だけじゃなくて祇王学区の方々に対しての説明もしっかりしてもらいたいと思います。

次に、2点目の大きな質問に移ります。

野焼きについて質問します。

まず、野焼きというのは、法的には禁止されていますが、市民の方々からの苦情というのがないのかどうか、お伺いしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 環境経済部長。

○環境経済部長（白井芳治君） 議員の皆さん、おはようございます。

太田議員の野焼きについての市民からの苦情についてでございますけども、野焼きに関する市民からの苦情はあります。苦情件数でありますけども、平成26年度14件、27年度19件、28年度11月末現在で17件の苦情が寄せられております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） そうした苦情に対して、結構ありますね、20件近く毎年、これ、まず時期とその1年の間の季節でいいので、時期とどのように対応されているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 環境経済部長。

○環境経済部長（白井芳治君） 苦情のある時期でございますけども、多くは秋、農作物の収穫のあった後、枯れたやつを焼却されるという時期に多くあります。そういった苦情があった場合は即刻環境課の職員が現場に出向きまして、適切な指導をしているところでございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） 連絡があったときに現場で適切な指導をされているということですが、その指導の前にこの野焼きに対する規制とか監視というのは、行政としては何か行っておられるのかどうかをお伺いしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 環境経済部長。

○環境経済部長（白井芳治君） 規制や監視でございますけども、野外焼却、いわゆる野焼きは、廃棄物の処理及び清掃に関する法律で禁止をされております。ただし、例外といたしまして、風俗慣習上、また宗教上の行事を行うために必要な廃棄物の焼却、そして農業、林業、漁業を営むためにやむを得ないものとして行う場合は例外の措置を設けられているところでございます。

また、野洲市が持っております生活環境を守り育てる条例では、法に基づき野焼き防止の啓発、監視に努めると共に、誰もが野焼き防止に協力することが義務付けられておりまして、ホームページとか自治会の回覧で周知を図っているところでございます。

監視につきましては、基本的に地域の皆さんからの通報を受けまして、先ほど言いましたように、現場に職員が出向きまして、指導を行っておるところでございまして、地域と

連携した体制で取り組んでおります。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） では、通報があつて現場に出向いて、その野焼きの現場を発見したときの指導は具体的にどのようなことを行っておられるんですか。

○議長（坂口哲哉君） 環境経済部長。

○環境経済部長（白井芳治君） 具体的に現場に出向きまして、まずは原因者を特定することによって進めております。実際特定できれば、ビラ等を用いまして、禁止されている旨を伝えまして、今後はしないように指導をしているところでございます。中で悪質なものについては、警察と連携をとりまして指導をしていただいているところでございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） 基本的には注意喚起ということですね。悪質な場合は警察ということですが、例えば市民からの特定の場所で野焼きがされているという常習的に行われていると、その野焼きも、僕も1カ所見て行っただけですけど、部長には写真もちょっと見せてもらいましたが、ドラム缶が置いてあつて、常に野焼きもされているような現場があったりするわけですね。そういった情報があった場合に実際どうしているのか。それが警察と連携されて、以前から市民の方のある情報ではもう前からずっとされているということで、今の部長の答弁では、常習犯、悪質な場合は警察と連携してということですが、実態としてはそれが解決していないという現状があるんですけど、その場合どのように対応されるんですかね。

○議長（坂口哲哉君） 環境経済部長。

○環境経済部長（白井芳治君） 太田議員からお話をいただきまして、私も現場へ出向きました。ドラム缶が置いてありました。ただ、ドラム缶の中を見ますと、もみ殻のくん炭を焼いた形跡なのか、そういう仕組みがございまして、通常家庭ごみを焼却されているというようなものは見受けられませんでした。最近、周知もしておりますし、家庭ごみについてはほとんどされていないように思います。先ほど申しましたように、畑の枯れたやつとか、田んぼでいいますと、麦跡の麦わらの焼却とか、そういったものが中心だと思っております。くん炭につきましても、周辺民家に影響が出ないように配慮をされることが当然必要ですし、またそこら辺も啓発していきたいと思っております。

そして、悪質な場合は警察と連携ということで私は申し上げましたが、そういった

ものは、例えば建設業者の敷地内で資材等を焼却していると、そういったものが案件としてございまして、過去にも警察に来てもらって指導してもらったというケースがございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） なかなか難しいというか、これ判別できないのは、農業用のごみであったり、認められているものの中について一般ごみを入れてまぜて燃やされているとかいうことがあった場合にその区別というのはなかなか付かないけど、混同して野焼きされているということも僕は情報として聞くこともあるんですけど、その対応はなかなか難しいのかなと思います。

それと、基本的に職員だけの対応は難しいからということもわかるので、そこら辺は住民の方からの通報によって対応されているということもすごくわかるんですけど、ただ、今回のケースで聞きますと、そのある住宅街にそれが結果的に畑の関係の認められている野焼きであったとして、そのにおいが風向きによって流れてきますね。そのことによって、洗濯ができないとか窓があげられないとか、この秋時期は朝から晩まで毎日続くと、それが連日続くということで、職員の方にも来てもらって、1度は対応してもらったけど、翌日もその次の日もずっと続くわけですね、いった場合にもうどうしようもないというような現状はあるんですね。そういった場合は住民の方はその煙に対してとかはもう我慢するしかないということですかね。

○議長（坂口哲哉君） 環境経済部長。

○環境経済部長（白井芳治君） 先ほど申しましたもみ殻のくん炭、あのにおいは私も経験がございますけども、大変干し物に付着して、ずっと一日中残るというようなこともございますし、そういったことは十分承知しております。先ほど言いましたように、風向き等、当然周辺民家に配慮する必要がありますので、農産物の焼却といえども、それはだめなことやということで、今後いろんな方法を用いて周知していきたいと考えております。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○7番（太田健一君） 燃やされている方への周知ももちろんやってもらいたいんですけど、住んでおられる住民の方々にもそのにおいがもみ殻にどこかくん炭のにおいであってということの理解ということもしてもらわないと、現状は一般ごみが燃やされている単なる野焼きやと思われていることがかなり多いんですよ。一部のエリアじゃなくて、全市的にいろいろ聞いていると、あちこちやっているよみたいなことを、常習的にやっているみ

たいなことを僕は聞くので、それは現場を見ないとなかなか特定できないこともあるから、その発見、指導のどこまで難しいと思うんですけど、その両面を含めてしっかり指導してもらいたいと思います。

それと、ちょっと最後の質問になるんですけど、大津の方では毎年大津赤十字病院の方に毎年野焼きで全身やけどした患者さんが病院に運ばれてくるということが、来ていて本当に困っているということを僕は聞いているんですけど、野洲市内でこうした事故とかがあるのか、実態把握されているのか、お聞きしたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 環境経済部長。

○環境経済部長（白井芳治君） やけど等の事象を把握しているかというようなご質問なんですけども、過去３年間で聞いてみますと、本市でも同様の事故が１件発生をしております。今年９月に発生したものでありまして、野外の焼却中に衣服に火が移ったというようなことが原因で全身やけどで亡くなられたというような案件を聞き及んでおります。

○議長（坂口哲哉君） 太田議員。

○７番（太田健一君） 野洲市の方でもあるということなので、そもそも違法とされている野焼きに関しては、適切な指導をしてもらう。近隣住民への理解ということを求めてもらう。さらにこういう健康面というか、市民の命と健康を守るという意味でも、こうした野焼きがこういう事故もあって、全身やけどの事故というのが全国的に多分あると思うんですよ。滋賀県内だけでもそういった全身やけどの事案もあるので、そこら辺も含めてしっかり周知徹底してもらっていただきたいというふうに思います。もう答弁はいいです。

以上で終わります。

○議長（坂口哲哉君） 次に、通告第９号、第１番、稲垣誠亮議員。

○１番（稲垣誠亮君） 第１番、稲垣でございます。

それでは、一般質問を開始させていただきます。

１件目の副市長の公募についてお伺いいたします。

地方自治法では、市町村に副市町村長を置く。ただし、条例で置かないことができる定められており、市長に選任の意思がないのであれば、条例を制定するのが本来のあり方であると思いますが、見解をお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 総務部長。

○総務部長（遠藤伊久也君） 稲垣議員の質問にお答えをいたします。

昨日も市長の答弁の中で副市長の選任についてございました。市長選を終わって数名に

打診をしたけれども、実らなかったと。今後についても、ふさわしい方があればということでもございましたので、当然選任の意思があるということでございますので、条例の制定は必要ないというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、次の質問に移ります。

病気などの一身上の理由で副市長が辞任し、短期的に不在となることは他の自治体でも見られることです。しかし、野洲市においては副市長不在が5年以上続いておりますが、選任しない理由を市長にお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 選任しないと言っていないので、選任しない理由はございません。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） じゃ、選任の意思があるのであれば、今後の予定を具体的にお伺いできますでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 予定というか、常にいい方がおられれば就任いただきたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 副市長が在籍しない状態では市長の仕事の負担も大きくて、また業務の役割や考え方が偏ってしまうのではないかと思います。再度お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 大変かどうかは仕事のやり方、スタイルによりますから。それと偏るかどうかは偏ることはないと思っています。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、これ以上選任が先延ばしされるようなことであれば、先の条例の制定もやむを得ないのではないかと思います。再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 条例の制定がやむを得ない、意味がわかりません。

○議長（坂口哲哉君） ゆっくりしゃべって下さい。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。では、次、議会とのパイプ役にもなる重要なポスト

トが不在ということを市長自身はどうお考えになっていらっしゃるでしょうか、お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） いや、副市長が議会のパイプ役かどうかは、たまたまそうなるかわかりませんが、前も何か質問されて言ったと思うんですけど、副市長というのは市長を補佐するものであって、議会のパイプ役という役割というのは存在するのかどうか、私は意味がわかりません。全ての方が議員と接触したり、この場ではこれ全部いますね、教育長、部長。だから、副市長だけがパイプ役ではないと思いますし、その見解については、私は同意をしかねます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、次の質問に移ります。

前野洲副市長、川尻良治氏は、主としてどのような役割を担っていたのか、市長にお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 当然、私の補佐をしていただいていたし、前というと、山崎前市長の補佐役もなさっていたんだろうというふうに思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） よろしければ、具体的にどのような補佐をしていらしかったか、数例でいいので、お伺いできないでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 副市長というのは特命があるわけではありませぬので、ただ、例えば政令市とか都道府県の場合は特命で副市長とかを置く場合があります。滋賀県でも空港のプロジェクトがあったときには2人の副市長にして、1人の人は空港対策を特命でやっていた。ですけれども、一般的には特命はございませぬので、さっき言ったように補佐役ですね。もう何かご質問の意味が全くわからない。地方自治制度をご理解いただいて質問いただいているのかどうか、ちょっと疑問に思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、次の質問に移ります。

現在、本市においては市長と議会側の対話が十全に機能しているとはいいがたい部分があります。また、行政課題を円滑に解決するため、地方行政に精通し、渉外にすぐれた副

市長が必要であると思います。そこで公募を提案しますが、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 私の考えでは、その職は公募に馴染むものではないと思っています。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 私は公募も人材発掘の手段として非常に有効であると思うんですが、公募に馴染まないといった理由をもしよろしければお伺いしたいんですが、答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 公募が馴染まない理由といたしますか、やはり補佐役ですから、かなり多面的、多様な信頼関係とか、そういった中でやるべきものですから、公募というのは明確に要件を書かないとだめですけども、やっておられるところはありますけども、全ての要件が書き切れません。本当に公平で透明性のあるものができるかどうか。そこは私としてはできないと思うし、前の方はできるとっておられるわけなので、そこはもう見解の相違です。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 最後なんですけど、この5年以上副市長が不在の状況の中で、きのう3人の方に副市長として市長補佐のオファーをしたが、ちょっと辞退されて、よい方がいいればお知らせ下さいという答弁だったと思うんですが、市長には選任したい意思があるということなんですけど、やはり市長、今までの議会答弁を見ていると、市長の従来のやり方ではいつまで経っても結果につながらないのではないかなと思うんですが、そのあたりいかがでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） これは反問は後でとってあるので、2回しかできなかったと思いますね。ここまでしつこく言われるから、お答えを兼ねて言いますけども、あなたは先般市長選に立候補されました。私が一市民として当然出てこられると思っていました。ビラも自宅に届きました。

（「回答がずれていませんか」の声あり）

○市長（山仲善彰君） ということは自分としては市長を公募されようとしたのか、誰か

一部の人があったのか。それを考えても市長候補であって、不透明に降りた方がこんな質問いつまでもやるものではないと思います。私はいい人があれば就任していただきたいと思っています。これでもう答えは終わりです。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。ありがとうございました。

では、次の質問に移らせていただきます。

矢萩川踏切についてお伺いいたします。

矢萩川踏切は市内中心部を南北につなぎ、朝夕を通して多くの人たちが横断しています。この踏切の通行量ですが、平成27年12月の一般質問の際に和田勝行都市建設部長に尋ねたところ、1日当たりの利用者数は47人と答弁がありました。その後、踏切利用者の方が平成28年10月31日、2時間の間に通行者数を調査され、その資料を道路河川課の野崎課長、吉川専門員に11月8日お示しさせていただきましたが、調査内容によりますと、自転車通行者数69人、歩行者11人、保育園児と先生13人の合わせて93人の方が通行されており、議会答弁の内容と大きく異なるようにお伺いしましたが、実態把握のため正確な通行量調査を求めたいと思います。お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 都市建設部長。

○都市建設部長（小山日出夫君） それでは、稲垣議員の矢萩川踏切についての1点目のご質問でございますが、通行量調査の実施の見解につきましてお答えをさせていただきます。

ご質問の平成27年11月議会の一般質問でお答えをしました47名とは1日当たりの歩行者数でございます。その調査区分といたしましては、二輪車55台、自転車693台、歩行者47名で、踏切利用者数になりますと、合計で795人相当でございました。したがって、自転車等の乗り物を含めた総人数ではなかったことから、人数が大きく異なると誤解されたものと思われます。つまり、先の議会での答弁の人数47名につきましては、1日の踏切利用者の内数でございまして、調査に基づく総人数は先ほど述べたとおりでございますので、改めて通行量調査の実施については考えておりません。

以上、お答えいたします。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、795人という数字をお聞きになられて、矢萩川踏切を必要としている市民が多くいるという印象が私はあると思ったんですが、部長、お伺いでき

ますでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 都市建設部長。

○都市建設部長（小山日出夫君） ただいまのご質問でございますが、これはもう私の感想ということでお聞き願いたいんですが、便利であるゆえにこのような多くの方が拡幅や改良が不可能である、いわゆるこの危険な踏切を渡っておられるなど、このように感じております。このようなことから、この踏切はまさに利便性よりも安全性を選択しなければならないと改めて感じたところでございます。

以上、お答えとします。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、次の質問に移ります。

矢萩川踏切は平成27年12月の一般質問の際に、本市としては閉鎖の方向で検討と答弁がありましたが、通院や買い物などをされる高齢者や車を運転できない、いわゆる交通弱者と言われている移動手段が限られている方にとっての大事な移動手段になっています。本踏切が閉鎖された場合、隣の甲賀踏切までは約820メートルあり、利用者に相当の負担を強いることになると思います。利用実態によっては、存続へ方向転換を求めたいと思いますが、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） これについては、私もあの踏切は従来から懸念しています。特に高齢者の方が踏み外したりとか自転車で乗っておられる方が見えますけど、本当に危険です。従来からあそこについてはもう野洲駅の橋上化、そして久野部の高架橋で廃止するという大きな方針があります。保育園の子どもたちが通っているというのは本当に心配してまして、特にあの踏切は駅の構内ですから、距離が長く、だから、安全と便利さをどちらを取るかといえば、今の時代は安全さを取るべきだと思っておりますので、方針は転換するものではないと思っています。

本当は改築できればいいんですけども、あそこに巨費をかけても改築できる場所ではないんですね、駅の構内ですから。もう駅の構内には今言いましたように野洲駅があつて橋上化されているわけですから。ということで、できるだけ稲垣議員の賢明なご判断、健全な思考様式を期待しております。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） この踏切が危険要素があることはわかっているんですが、改善や

拡幅などせず閉鎖をする、一方的に決めるというのは短絡的ではないかと思うんですが、再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 短絡的といいますか、客観的に過去の経緯、現状、将来を見て、自ずから判断は決まってくると思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 交通弱者の方々には安全ではちょっと一部今の現状では保障されないことはわかるんですが、大回りすることができる人はそもそも利用されていないと思いますし、ここを使わざるを得ない方々が、1日の交通者数として表れていると思うんですが、この交通弱者の方々には閉鎖によって行動手段が制限されることに直結するおそれもあると思うんですが、その点からもちょっと見解を求めたいと思うんですが、お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） あれば使われます。そして、今の場合は便宜が供されていますから、使われますけども、例えば買い物に行く、病院に行く、本当にあそこが必要かどうか。まちづくりというのはできるだけ、昔はもう何もかもふくそうしていましたが、ヨーロッパのまちづくりがいいとは言いませんけど、いわゆるブロック単位で駅の北と南は、やはり独立して一定の居住サービスが受けられるようにするというのが今後のまちづくりですから、残っている動線を危険な状態で維持するというのは健全なまちづくりではないというふうに考えていますので、通れる間は通っていただけたらいいですけども、あれを積極的に展開するよりは別の方策をとった方が健全な対応だというふうに考えています。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 済みません。今の別の方策というのは、具体的にどういうことなんでしょうか。求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） ですから、少し時間がかかっても駅の橋上化のところを使ってもらうとか、久野部の高架橋。あそこもいろいろ傷んでいますし、県にももう少し便利な交差点にして下さい、高架橋にして下さいと言っていますから、あそこも結構スロープがきついか、すぐにはできませんけども、これからの時代はああいうところも本当はエレベーターが付くとか、そういったのが国際的な標準ですから、そういったような対応の方が

ふさわしいというふうに私は考えています。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 今、野洲駅の話があったんですが、仮に矢萩川踏切から野洲駅まで大体4、500メートルあると思うんですけど、仮に約400メートルとしたときに、ざっくりですけど、高齢者や子どもだと歩く速度を時速3キロだと仮定した場合、8分歩行時間が現状よりふえることになると思うんです。帰りも合わせると往復で16分かかることになると思います。体力のない子どもや高齢者が雨の日や冬の寒さの中、それだけの時間歩くことはちょっと大きい負担になると思うんですが、天候が悪くても食料や日用品を購入するために歩かなくてはいけない方がいらっしゃると思うんですが、今言った負担はちょっと安全と比較すると、享受すべきかなというふうに市長の答弁を聞いていたら思ってたんですが、その点、見解を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） そうということです。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。ありがとうございました。

それでは、次の質問に移らせていただきます。

地域活性化の起爆剤として、TBS「ナイナイのお見合い大作戦！」に野洲市も応募してみてもはとお伺いいたします。

地域活性化の起爆剤になる、ぜひ自分たちの地域でも開催してほしいと年4回前後、特番として放送され、地方自治体からの出演オファーが殺到しているTBSの「ナイナイのお見合い大作戦！」という番組があります。テレビ史上でも珍しいほどに真剣なお見合い番組として認知されており、独身の参加希望者は毎回ふえています。

この番組のテーマは結婚応援、いわゆる婚活です。現在、10数カ所の自治体が当選を待ちわびています。この番組は、開催される市町村に在住する独身男性と本気で結婚したい全国の独身女性が1泊2日で集団お見合いを行い、その一部始終を放送する内容です。

福岡県八女市では、我が町は声をかけてくればいつでもすぐにも開催できますと、2年がかりの出演依頼をTBSに送り続け、ようやくイベントの開催に至りました。婚活女性の応募数も回を追うごとに増加し、2014年8月に放送された兵庫県淡路市では、募集開始から2週間で女性の応募数は1,569通に上っています。

この番組は野洲市よりも人口が少ない市町村で開かれることも多く、ようこそ我がまち

へと歓迎する冒頭イベントでは、自治体が働きかけ、毎回1,000人規模の市民が集い、各種地元団体が自治体主導でこの日のために一堂に集まります。

番組をきっかけとして実際に結婚に至るカップルが誕生することは地方自治体としても喜ばしいことであり、地域活性化、野洲市の魅力を発信する機会として応募を検討してはどうかと思いますが、お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部長。

○政策調整部長（寺田実好君） それでは、稲垣議員のご質問にお答えをさせていただきます。非常にユニークなご質問をいただきまして、ありがとうございます。

ご質問いただきましたテレビ番組につきましては、私も何回か視聴をさせていただいております。今、お話のありましたように、集団お見合いを行い、その一部始終を放送される、非常に人気のあるバラエティー番組だというふうに私は思っております。

また、国内の急激な少子高齢化による人口減少が社会問題化し、全国の自治体ではさまざまな人口減少対策の取り組みが進められております。そういう意味では、このような集団お見合いによるまちおこしも定住促進策の1つであるかも知れません。

ただ、それを本市に置き替えてみますと、本市における人口減少という課題につきましては、市街化区域が周辺地域と比べてその割合が低く、住み続けたいが住むところがない、そういうところにあるというふうに考えております。そのため、本市としましては、まず市街化区域の拡大による住宅地の確保を優先して取り組んでいきたいというふうに考えております。今申し上げましたように、市としましては、少子化対策としての結婚応援の必要性は認識はしております。しておるんですけど、今申し上げました番組の誘致というような形での婚活支援の取り組みを市の事業として優先的に進めることは今現在のところは考えておりません。

また、視点をちょっと変えまして、地域活性化、あるいは市の魅力発信という視点におきましても、先ほど申し上げましたように当該番組があくまでもバラエティー番組であるということですので、継続して来訪者をふやす手だてとなるのかについては疑問があるということから、番組を誘致するまでは考えておりません。

以上、お答えとさせていただきます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、再質問させていただきます。

今、市街化区域の話があったと思うんですが、野洲の市街化区域の割合が低くて、市街

化区域を拡大していくことが重要ということ、ご意見についてはそのとおりだと思っております。ただ、住宅地の整備というんですか、それも非常に大切なことではあると思うんですが、市を挙げて結婚応援や子育てや教育、介護などのライフステージに応じたというんでしょうか、野洲という地域の元気さのようなものが本市にはまだまだ不足しているのも事実ではないかと思うんですが、その辺のちょっと見解をお伺いできますでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部長。

○政策調整部長（寺田実好君） 野洲の元気さと言われていると思うんですけれど、そういう意味で市として施策を展開する中で、今申し上げましたように、定住促進策、あるいは人口減少を見据えたものなんですけれど、そういうものにつきましては、先ほど申し上げましたように、やはり野洲に住みたい、あるいは住み続けたいと言われるような施策、これを重点的に進めることがまずは大事なというふうに考えております。その一環としては、常々市長の方からも申しております子育て支援であったりとか雇用の創出であったりとか、そういうものを重点的に進めることで野洲の元気が出てくるというふうに認識をしております。

以上、答弁とします。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 野洲に住みたいということであれば、やはり情報発信というんでしょうか、私が常々申し上げていますが、その1つの方向性から攻めていくのではなくて、多方面からアクティブに行動していけば、なおさらよりよいのかなと思うんですが、その点だけは局地的ですけど、お伺いできますでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部長。

○政策調整部長（寺田実好君） 今、稲垣議員がおっしゃるように、画一的、あるいは1カ所のための施策を展開する、それではだめだと思います。やはり、多方面から施策を展開していったら、野洲の魅力を発信していくと、これは当然言われるごとく必要だと思っております。

1点、ちょっと申し上げさせていただきますと、先日12月4日の日曜日にフォーラム野洲2016、最後のフォーラムを開催させていただきました。その中で野洲に立地しておりますP&Gの野洲工場の工場長の講演をいただきました。その方が言っておられることが私はちょっと印象に残りましたので、まずは地域活性化、あるいは魅力の発信という意味においては、住んでいる者、働いている者がまず誇れるようなまちにしていく必要が

あるというふうなことをおっしゃっていました。私もそのとおりだというふうに思いました。ですから、いろんな施策を多方面で考えるのも必要かも知れませんが、それぞれ皆さん住んでおられる方がこのまちが一番だ、こういうものがあるというふうな、誇れるまちにしていくような施策を我々も考えていきたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） ちょっと共同推進的な立場から、もう一回ちょっと掘り下げてお伺いさせていただきたいんですが、テレビというものにはまだまだ圧倒的な影響力があって、まず知ってもらうという取り組みとしてはこれ以上のものはないのではないかと私は考えております。番組の放映によって、地域活性化の過度の期待はできないと思いますが、私はそれでも応募はこの一環として有意義なものであると考えております。インフラ面の整備だけではなくて、元気さ、にぎわいをつくることも同時期に取り組んでいくことが大切なのではないかと考えております。それが、やはり本市が人口減社会の中で、結婚応援や地域活性に対してやる気のある自治体であるということを示すということができるからだとは私は考えております。これは番組の応募者だけではなくて、番組を視聴した近隣の自治体に住んでいる方に対してもアピールすることができると思っております。

また、番組への応募はあくまでも一過性という答弁が最初ありましたけども、野洲市を活性化させるための足がかりとしてのもので私は申し上げておまして、具体的にどう行動したらよいか、イメージしづらい目標ではなくて、具体的にテレビに取り上げてもらうという、具体的な共通の目標を持つことで野洲市と地元団体間の連携や共同推進がスムーズになるのではないかと考えております。別々に活動している団体同士の交流が、やはり生まれることになると思います。地域活性の取り組みもさらに活発になることが期待できますし、野洲の魅力をどう発信するかを考えることで野洲に対する愛着も生まれて、市民の意識も盛り上がるのではないかと考えております。

番組への応募はそういったことを市民を巻き込んで考えていくきっかけとして非常に有用であると思うんですが、部長、再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部長。

○政策調整部長（寺田実好君） ご答弁させていただきます。

稲垣議員がおっしゃるようにマスメディアというものの活用というのは、これは大事なことだというふうに思っております。それを利用できるときには利用をして、積極的に活

用していく、これもそうあるべきだというふうに思います。ただ、その番組の内容という
と、語弊があるかもわかりませんが、先ほど私は答弁の中であくまでもバラエティー
番組であるというふうに申し上げました。多分ですけど、制作側の意図、あるいは視聴
している側の見ている印象、それも結局のところ、あの番組につきましては、地域の活性
化、あるいはその市の魅力の発信という分野ではなくて、誰と誰がカップルになったとか
だめだったとか、そういうふうなところに印象を置いた番組であるのではないかなという
ふうに私自身は思っております。

そういうこともございますので、マスメディアの活用と、そして稲垣議員がおっしゃる
市、そして関係団体が共同して、まちづくりを進めていくという観点については私も大い
に賛成はさせていただきたいんですけど、そのマスメディアの活用に係ります番組の選
択については一考すべきかなというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。検討していただければと思います。

では、次の質問に移らせていただきたいと思います。

新野洲市立病院整備についてお伺いいたします。

1つ目、お伺いいたします。一般会計から病院事業会計への繰り入れについて、市の財
政運営に支障が出ないように、財源確保が欠かせないと思います。毎年想定している1億円
以上の財源確保について見通しをお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部長。

○政策調整部長（寺田実好君） それでは、1点目の1億円以上の財源確保の見通しにつ
いてお答えをさせていただきます。

本市では、県の方から病院事業の実施計画段階において1億円以上の財源確保の具体的
な見通しを求められていることから、平成29年3月に中長期の安定的な行財政運営を目
的とした計画を取りまとめていく予定をしております。現時点の見通しといたしましては、
自治体クラウドで年間約6,000万円程度、そして新電力の導入で年間約4,000万
円、その他新クリーンセンターの包括管理委託やコンビニ交付の推進などにより、削減を
考えていきたいというふうに思っております。これらを含めまして、財源確保の見通しを
立てていきます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 済みません。新電力の導入についてちょっと済みません。ちょっと勉強不足なので、再度説明を求めたいんですが、お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部長。

○政策調整部長（寺田実好君） 全員協議会の方でも一応ご報告をさせていただいております。電力の小売りの自由化に伴いまして、新電力が参画をした競争入札の中で電力の購入、これを競争入札を付して購入をしていこうということによる削減でございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 済みません。ちょっと細かくて申しわけないんですけど、あと残り2つあった新クリーンセンターの包括管理委託とコンビニ交付の推進に関しては、それぞれどれぐらいの削減額というか、余剰金額が生まれる想定でしょうか。お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部長。

○政策調整部長（寺田実好君） お答えをさせていただきます。

今、ちょっとその他ということで付け加えをさせていただいたものでございます。新クリーンセンターの方ももう包括委託は始まっております。その辺が始まることによります人件費等の削減ということで、額までは今のところ正確な数値は把握はしておりません。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） それでは、次の質問に移ります。

新聞紙面にも記事となっていますが、野洲市の前監査委員で税理士の山川晋氏が病院の収支計画で病院が8年後に黒字の転ずるとの市の試算は余りにずさんとして、任期途中で監査委員を辞職したことについて、市長の見解をお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 前監査委員が病院の収支計画がずさんであるからということで任期途中で辞職したことへの見解ということですが、私はそういうことは知りません。ただ、新聞報道にはこれ、今、新聞を持ってきたんですけども、今年の11月23日付の新聞で、何かその旨は書いてあるんですけど、むしろ、引用文が書いていないんですね。ここに引用でのコメントと記者が書いたコメントがあります、いわゆるベタの部分と。今、稲垣さんはどういう情報でもって、病院の収支計画に疑問なり、ずさんであるから途中で

辞任したということについての見解とおっしゃったので、その事実は稲垣さんは報道で知って言うておられるのか、直接ご本人から聞いて、今、質問をされたのか。これは反問はもったいないので、使いませんけども。

（「回答していないんですね。まず回答をですね」の声あり）

○市長（山仲善彰君） ちょっと退席して下さい。さっきもあつたし。ちょっと休憩。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩いたします。

（午前 11 時 36 分 休憩）

（午前 11 時 37 分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○市長（山仲善彰君） ご質問は、もう名前は言いませんが、前監査委員の方が病院の収支計画に関して疑問なり、あるいは、今、「ずさん」とおっしゃいましたけど、ずさんだから、辞任されたけども、その見解はというご質問だったと思います。

私は山川さんからはそういったことは一切聞いていません。今、稲垣議員がそういったことについての見解とおっしゃったということは、稲垣議員はそれを報道で知られたのか、前監査委員から直接聞かれたのか、知りませんがという前置きで私は答えようとしています。

新聞ともおっしゃったので、新聞だけなのか、直接だけなのか、本当は知りたいんですけども、新聞では、これ答弁は重要だから朗読をいたします。今年 11 月 23 日水曜日の新聞の全国紙の県内版に書いています。これ名前書いていますから読みます。山川氏は 2014 年 7 月に市代表監査委員に就任。任期は 4 年だったが、市の計画に疑問を持ち、今年 9 月末に辞任した。10 月 23 日に投開票の市長選では駅前病院建設に反対する元市議の栢木進氏、60 歳を応援したと書いています。

でも、私は 9 月に辞表をいただきました。これは 8 月議会の会期中であります。辞職願には一身上の事情とだけ書かれていまして、今、稲垣議員が言われたことは一切触れられておりません。そして、私がこの方と出会ったのは、8 月議会決算認定の案件のあったときにここに座っておられた、隣に座って挨拶して、「ありがとうございました」と言ったそれっきりであります。辞表が届けられて、私は総務部長と監査委員事務局長に慰留をしたいと言いましたら、慰留には及ばないというふうに聞いているので、もう市長は出会ってもらっても困ると、出会ってもらっても意味がないということでしたので、それなら仕方がないと。最終日にはご挨拶でもしようと思って、言っておいたんですけども、お出会

いがないませんでした。物すごく不思議なことであります。ですから、もしか病院の計画に疑問をお持ちであれば、どこかでお触れになったと思います。

それと、昨年度から、今年度までかかったんですかね、ちょっと記憶は定かではないですけども、野洲病院への支援について特別監査をお願いしました。これはじきじきお願いをいたしました。ご苦勞をかけますけどもということで。できるだけ厳しくやって下さい、過去、現在の野洲病院関係の市の支援とか効果とかをやって下さいというふうに厳しくとお願いしました。あわせて、市の病院計画に関する案件についても、関連であれば、全て説明資料をお出ししますので、ご意見を下さいと言いました。でも、実際の内容は穏やかな内容でしたので、「先生、えらく穏やかじゃないですか」と言って、私は受け取りました。

だから、今回、病院で私はこんな質問が出てくとは思わなかったですし、新聞報道は公開質問状を出されたわけですね。この公開質問状は今月の２２日に市に持ってこられたようであります。職員に手渡しをされました。私が見たのは２２日の夕刻であります。部屋で執務をしておりました。そしたら、新聞社から、私はその時点では持ってこられたいのは聞いていたんですけども、執務をしていたら、職員からある新聞社が公開質問状を出した上で記者会見をされたので、市長のコメントをとということでしたので、私はもう中身を読まないで、公開質問状というのを職員からもらいまして、いずれにしてもこれは市長への手紙だから、市長への手紙として扱ったらいいいので、その旨答えるようにと言って終わりましたので、一部そういう報道はされております。

という経緯の中でなぜこの見解が求められるのか、意味がわからないので、まず答えることはできません。仮定がありますね。山川さんは市の病院計画に対して疑問をお持ちだったからやめられたと、これは私は新聞の報道で読みましたけども、人から生の声で聞いたのは今初めてであります。

以上がお答えであります。

ちょっと反問をします。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩をいたします。

（午前１１時４３分 休憩）

（午前１１時４４分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

質問内容に応じた反問であるならば、許可いたします。それ以外は許可いたしません。

市長。

○市長（山仲善彰君） 対話型の議会で行くというふうにな新議長のご就任のときにご挨拶でいただきましたので、それで今も触れられて、この報道されたように質問いたします。

（「質問して、その答えは」の声あり）

○市長（山仲善彰君） 今言いました。だから。答えは完結しましたよ。お答えできません。もう一回ちょっと休憩で説明します。補足します。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩します。

（午前 11 時 44 分 休憩）

（午前 11 時 46 分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

どうぞ、市長。

○市長（山仲善彰君） 今回 10 問の質問をしていただいています。そのうちの 6 問は今日、一生懸命、今、最後の調整をしています山川さんからの公開質問状の質問とほぼ同じです、6 問は。2 問も趣旨がよく似ていまして、それからすると 8 割が山川さんの質問です。これは頼まれてされたのか、あるいはそうでなければ、これは剽窃、盗作になります。だから、この質問がこの議会できちっと本当に整理しているのか、いわゆる囑託の質問なのか、合意の上なのか、あるいは勝手に剽窃されたのか。

私は選挙が終わってから、また任期 4 年間いただけるということで、情報収集で稲垣議員のブログを見ましたら、一緒に写真に写っておられました、この方は、黄色いジャンパーを着た。選挙中、まさに新聞に書いてあるように選挙活動をしておられました。11 月に入ってから自治連合会との懇談会を各自治会で全てやりました。そしたら、ある自治会ではこの方は応援演説もされたと聞いて、びっくりをいたしました。ということは、全く選挙運動の後のことをやっておられる。稲垣さんとはツーショットが写っていたということで、それは少し補足理由なんですけども、要するに、この質問というのは山川さんと連携されたのか、勝手に山川さんの公開された質問状を議会で自分のものとして質問しておられるのか。はたまた山川さんから頼まれたのか。これは市民の代表としての議員の質問としては、やはり重要な問題ですので、そこをお答えいただきたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1 番（稲垣誠亮君） 反問ですね。

○議長（坂口哲哉君） はい。今、お答え。

○1 番（稲垣誠亮君） まず、山川晋氏の名誉のためにお答えしますが、私はその選挙以来、山川氏とは電話も含めてお話ししたこともありませんし、お会いしたこともございません。まずは、その前提の上で話します。そうしますので、依頼を受けたとか囑託質問であるとか、そういったことは一切ございません。

次に、当然連携されているということもお会いしているわけでもなければ、直接お話ししているわけでもありませんので、方程式としては成立しないと思います。

次に、質問を何か今、ちょっと大変心外な反問を受けたように私は記憶しているんですが、盗作、何か私が盗用したかのような、それに類するような反問を受けたんですが、決してそのようなことはありません。やはり、今回の２段階方式のプランが特別委員会で示されまして、当然ある程度、私も議会ごとに病院の問題は一般質問でさせていただいていますので、争点というか、ちょっとネックになる、気になるところというのは、やはり当然似通ってくるのは当たり前ではないでしょうか。単純に私は特別委員会の内容を見て、今回の質問をしました。今回の一般質問を通告させていただいてはいますが、まず私は今回の一般質問で一番ちょっと、今回はこの３番目にしても４番目にしても、３番目は再度の減収時のシミュレーションの作成、第三者による再試算で、４番目はその建物の除去費用のことについて聞いていますが、ちょうど反問いただきましたので、回答したいと思うんですが、私は建物の解体費用に関する現御上会の。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩します。

（午前 11 時 51 分 休憩）

（午前 11 時 54 分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

お答え下さい。

○1 番（稲垣誠亮君） 繰り返しますが、私も今回の一般質問に関しては専門家に、山川氏ではありませんよ、会計の専門家にいろいろ相談もしていますし、争点は、やはり似ていると言われるんですけど、そこぐらいしか、そこぐらいというか、当然会計にある程度知識の明るい方でしたら同じようなことを質問されると思いますし、盗作では当然ありません。

また、先ほどブログ云々の話もありましたが、選挙の開催中は当然、私はお会いしていますし、ちょっと少しの会話はもちろん当然させていただいていますが、何を聞かれていたかな。

○議長（坂口哲哉君） そんなとこまでは問うておられないですよ。

○1 番（稲垣誠亮君） わかりました。じゃ、とにかく独自のものですので。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 続けて。

○1 番（稲垣誠亮君） わかりました。

ということで、私は先ほど、もう一度質問させていただくんですが、その山川晋氏、前監査委員との会話の中で当然、一字一句同じ内容ではありませんが、それに類推するとうか、似たようなお話はお伺いしましたし、なぜこれを言いますかという、新聞記事の内容とも類推するわけでありまして、そういうことですので、再度その見解をお伺いできますか。

（「もうないと言いはんねん」の声あり）

○1 番（稲垣誠亮君） 見解はないですか。

○議長（坂口哲哉君） ちょっと暫時休憩します。

（午前 11 時 56 分 休憩）

（午前 11 時 57 分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

稲垣議員。

○1 番（稲垣誠亮君） では、次の3番目の質問に移らせていただきます。

本市の収支計画においては、8年後には病院事業損益が黒字に転換することになっています。しかし、滋賀県内の各自治体病院は経営難に置かれ、自治体の財政に多大な影響を与えています。しかしながら、どの自治体病院も事業計画の立案時には黒字で収支を立てており、開院後の実際の収支とは大きく異なっている現状もあるのは事実であります。

過去の都市基盤整備特別委員会において、市の考え方として、医療制度の変更や社会状況によって不測の事態が生じるおそれがあることを認めていることや事業計画の規模を考えれば、市の受託業者の試算のみではなく、公認会計士による再試算及び減収時のシミュレーションの作成を行い、市民がどの程度のリスクを負うことになるのか、具体的な検証を行い、市民の不安を取り除いた上で事業を推進すべきであると考えますが、見解をお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 3点目のご質問につきまして、お答えをいたします。

まず、市の受託業者だけではなく、公認会計士による試算をすべきだというご質問について、受託事業者と担当職員による試算に特に不備はないと考えております。今回、ご提案いただいたことにつきましては、必要はないものというふうに考えております。

なお、昨年１０月に実施した基本計画の精査支援業務と現在実施中の新病院の開設支援業務を受託しております株式会社病院システムの本市対策チームには１級建築士や薬剤師の他、日本公認会計士協会に登録しております現役の公認会計士も重要な担当者として携わっておりますので、ご提案の専門職、公認会計士なんですけども、の目も既に入っているということを念のために申し上げます。

また、先ほどご質問で伺いました山川氏は税理士で、数字のプロを自称されている専門家でおられます。現在、収支計画はその方が代表監査員に在任中に策定、公表しており、また実際本事業の執行に関わって、定期監査や決算監査もしていただいております。でも、その際にもご本人からは特にご指摘はいただいてなかったということを申し上げさせていただきます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩いたします。再開は午後１時といたします。

（午後１２時００分 休憩）

（午後 １時００分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

発言を求められております。

稲垣議員。

○１番（稲垣誠亮君） 先ほど２番の質問で、当初、市長から初めて見た、どこからの出どころかとありまして、これ通告にも記載させていただいていますが、新聞紙面にも記事となっているがというところがちょっと聞き取れていなかったのかなとちょっと思いまして、こちらは中日新聞の１１月２３日発行の新聞記事の中で病院が８年後には黒字に転ずるとの市の試算は余りにずさんというところを記載させていただいております。先ほどちょっと広報秘書課さんが中日新聞は市長の方に見せているということなので、何か先ほどのこと、初めて見たというのはちょっと矛盾するようだったので、こちらの方は訂正といいますか、ちょっと述べさせていただいて、次の質問に移らせていただきたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 続けて一般質問を行って下さい。

○１番（稲垣誠亮君） では、先ほどの３番の質問に対して、ちょっとお伺いしたい

んですが、これ今回公認会計士の件を聞いていましたが、先ほど答弁の中であって、公認会計士さんの詳細というんでしょうか、こちらの携わっていらっしゃる方の経験年数、所属等をもしわかればお伺いしたいんですが、答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） この方は先ほど言いましたように、今の開設支援業務、それと昨年度の精査業務などの担当者として業務にあたっていております公認会計士なんですけども、経験年数とかは今、手元にございませぬ。しかし、その公認会計士を証明する会社の書類などはしっかり公認会計士の登録に関する情報などがございませぬので、その内容をしっかりいただいて確認はさせていただきます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） いや、今の内容では僕は全然不十分だと思います。この今回の収支計画の立案に対して公認会計士さんが具体的にどの程度関与したか、どの程度従事されたかということが、やはり必要だと思うので、再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 具体的にどのようにといいますと、当然この事業収支計画の見直しの作業がございませぬので、具体的にその計算とかそれに関する情報の取り扱いとか処理とか、そのあたり具体的な業務を全て行っていただいております。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） ということであれば、公認会計士の適正であるという表現は極めて重い表現だと思っているんですが、その適正であるというふうな表現が同等のものがきちんと表明されているというふうに捉えていいんでしょうか。それ、再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） ですから、公認会計士の方はこの収支計画の業務にしっかり責任を持って携わっていただいております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。あと、私はあくまでもこの病院システムさん所属

ですので、各界の専門家を呼んで有意義な協議をしたいと考えたいんですが、こちら病院計画の合理性、適正について、独立した第三者により、やはり検証というのが求められると思うんですが、そのためには監査法人等の、大手監査法人は3社、4社ありますけども、ある程度独立性の高いところでの検証が必要なのではないかと思っています。なぜかといいますと、やはり受託業者の試算のみでは、こちらの再試算というのが必要であると思うんですが、再度、答弁を求めたいと思うんですが、お願いします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 従来から全部データを出して、きちっとやっています。前もどなたか質問があったと思うんですけども、監査法人とか、税理士は、ご質問で触れられた方は税理士ですから、税のことですし、公認会計士というのも基本的に事業を自らやる人じゃなしに、会計が適正に処理されているかどうかをチェックする。経営コンサルタントとか企画のコンサルタントの場合は当然将来に向かってですけども、公認会計士というのは、事業をして、それが適正かどうかをチェックしたり、指導する人であって、これ公認会計士の資格がある人は基本的な素養があるからお願いをしていますけども、まだこれから事業をやろうとしているわけで、それが幾ら監査法人を入れてもわかりません。もしか、入れよとおっしゃるんだったら、予算を見ていただくんだったら、どこかの監査法人を入れますけども、入れたところで、事業もやっていない、これからの将来予測に監査法人が適正に資格を持って仕事ができるかいうたら、それは私が知っている限りはあり得ません。だから、今はシミュレーションの段階ですから。いいかげんなシミュレーションはしていない。いろんな要素をきちっと置いて、公表しています。

これずっと5年間か3年間、こんな議論ばかりしていますけど、何かいかにも疑義があるみたいに。今日、回答しますけども、私はこの方のコメントを見ていたら、税理士であるのにはっきり市の意向に沿う形と見られ、独立した専門の会計士や監査法人のチェックが入っていない。これは幾らやっても、本当にこのデータとか見通しが問題であれば、全部公開していますから、やっていただいていい。野洲市議会として、じゃ、議員提案でやれとおっしゃるんだったら、私は無駄だと思うけども、日本で一番いい監査法人に頼んで、この材料をみんな出してやりますけども、それをやったところで、将来の事業のスキーム、あるいは医療の制度とか、そんなことまでさまざまな複数要因がある中で恐らくどの監査法人もそんな仕事を受けられないというふうに言うと思いますけども。それが答えです。何かいかにも疑義があって、隠して、今の申し上げたように前の監査委員は、受託者は発

注者の意向に沿ってやっていると。これはすごいことですよ。私はこれを読んで、びっくりしたんですよ。こんなコメントを専門業者が出すのかどうか。

だから、本当に第三者機関でやるんだったら、評価委員会を入れています。京都大学の今中教授は医療経済学の日本でも有数の専門家です。今はそういう段階なわけですね。事業をやっている公認会計士。事業をチェックする公認会計士だったらわかるけども、今、野洲市としてはそういうふうに考えています。でも、議会の総意とか特別委員会で今、稲垣議員のご提案が妥当だとおっしゃるんだったら、私は無駄な金になると思うけども、幾らでも入れますよ。逃げも隠れもしない。ましてや、前の監査委員から発注者の意向に沿ったような試算とかシミュレーションをして下さいと一切言うていません。私はだめだったらだめ、はっきり言ってもらえたと言っている。これは前の監査委員にも言っていますよ。どうなっているのかと思いますけど。

公開で討論しましょう言うたら、逃げて、これだっておかしいんですよ。そして、さっきも何か言われたけども、私は一身上の都合でやめるという辞意しか聞いていません。お出会いしようと思っても実際出会えなかった。あえて言えば、挨拶もなしにやめるってどんなことかなと思いますけども、同じ建物の中にいて。

もう一度言いますよ。この方との出会いは、なぜ私がこの方を頼むことになったか、知っていますか。知らんでしょう。

（「はい」の声あり）

○市長（山仲善彰君） 企業の倫理の法人をつくった、会をつくったといって、10人か何か前後で3年ほど前かご挨拶に来られました。野洲で会計事務所をやっている、市民のためにまた役立ちたいということで、メッセージを持ってこられました。その後、どこかでお出会ったのかな、出張で、駅で。ぜひ野洲のために貢献もしたいと思っているとおっしゃいました。ちょうど前の監査委員がやめられた。後、探してくれていたけども、いい方がなかったので、じゃ、野洲で事務所をやっておられる方というので、お願いをしたら引き受けられたわけです。全然予断も偏見もなしで仕事をやってもらっている。私は通常のコミュニケーションしかしていません。圧力も一切かけていないし、それが突然やめられたわけですね。

今、稲垣さんの質問とこの方の公開質問は違うと、軌は一にしているけども、通底はしていないとおっしゃるんですけど、この方も同じことを言っておられる。市がやっているシミュレーションはごまかしがあるかもわからんから、第三者にもっと検証させと。

（「視点は同じだと思います」の声あり）

○市長（山仲善彰君）　だから、もしか、もう一回繰り返しになりますけども、おっしゃるような法人があるんだったら、副市長は推薦してもらっても受け入れるかどうか知らないけども、公認会計士は推薦していただいたら、議員の皆さんがオーケーとおっしゃったら受け入れますから、チェックしていただいたらいいと思いますけど、ぜひ推薦して下さい。もちろん議決しないと予算は付きませんから。むしろこれは答弁とお願いをしておきます。

○議長（坂口哲哉君）　稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君）　わかりました。やはり、公認会計士さんというのは職務上中立性というものが職務上の義務といいますか、求められていますので、先ほど政策監の方から公認会計士さんの関与の発言がありましたけど、詳細な説明が一切、納得のいく合理性のある客観的な詳細なる説明が一切ありませんでしたので、やはりそれでは公認会計士による監査を受けたとは今の先ほどの答弁のみでは理解できないと思います。

収支計画の、やはり妥当性について公認会計士さんの監査をある程度受けて、適正であるというような類推する判断をもらうのは重要なことだとは思っていますので、先ほど市長の発言もありましたので、ちょっと自分、どこまで提案できるかわかりませんが、ちょっと宿題としたいと思います。

次の質問に移らせていただきます。

新病院に向けた２段階方式における手法として、現民間野洲病院との間で事業譲渡契約を行うとのことであるが、本計画では、前提条件として現民間野洲病院の施設、建物は解体するものであることから、事業前に同病院の責任において処理に関する事前の予約行為、もしくは相当をすべきであり、こちらの方は資産除去債務の取り壊し費用のことを指しておりますが、譲渡前に取り壊し費用を引き当てさせ、その上で試算、事業譲渡に向けた立案をすべきであると思いますが、法人としての経営責任を明確化するためにも必要であると思います。見解を政策監に求めます。

○議長（坂口哲哉君）　政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君）　それでは、４点目のご質問についてお答えをさせていただきます。

まず、野洲病院の経営責任を明確化するということですが、御上会の経営がこのように立ち行かなくなった責任を本当に明確化しようとするのであれば、過去の経営判断の要所

要所で将来性に乏しい対策を安易に決定してきた歴代の理事の方々を個別にただしていくことが必要になります。しかし、現市政といたしましては、それら過去の経営判断の多くがまちの政策や町議会の意向に基づくか、また沿うように進められてきたと考えられることに斟酌して、市民病院の整備事業の推進過程では実態は明らかにしながらも、あえてただすことをせず、新しい展望を優先してここまでやってきたところであり、これからもその考え方があります。

次に、除却費用を野洲病院において引き当てすべきというご意見につきましては、過日11月4日の特別委員会でご提案いたしましたように、御上会野洲病院からは資産や負債を問わず建物も含めて包括的に、無償譲渡の手続により承継することを方針としておりますので、法人が解散するまでにおいて、除却費を引当金として計上することの妥当性は乏しいのではないかとこのように考えております。

また、仮に議員ご提案の方法を採用した場合を想定いたしますと、確かに病院事業で除却費用が計上されることとはなくなりますが、一方で、今、試算しております野洲病院からの承継資産の見込み額がその分減って、一般会計が引当金をもって除却費を支弁するというような決算結果に変わります。キャッシュとしては何も変わらないという結果になります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） ご答弁ありがとうございました。

ただ、基本的な会計ルールとして、取り壊しが前提での建物であることですから、資産除去債務を、取り壊し費用をB/S上に計上するのは真つ当なことだと思うんですが、その説明が前回の委員会でもありませんでしたし、その辺、答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 今回、御上会野洲病院から新市民病院の方に事業を承継するということが今後野洲市における医療の継続、事業の進捗の中で医療の継続を達成する上で一番重要なことというふうに考えております。そのことから、法の合併等の規定に準じた今回考え方をとっておることや、患者カルテなどの個人情報も適法かつ円滑に引き継ぐことを含め、医療の継続性の確保が必然であることを踏まえると、資産や負債を問わず承継することとなる包括承継が適当であるというふうに考えております。このことから、土地、建物も含めまして、全て今回、承継させていただくというふうな計画でござ

います。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 仮にそれを資産除去債務を計上したからといって、医療の継続性に基本的な方向性としてはもう決まっていることですから、疑義を抱くような実態にもならないと思うので、また今の1点目と、法の合併とおっしゃいましたが、法の合併を適正に処理するのであれば、やはり資産除去債務を事前に計上して、市民にとってわかりやすい会計情報を開示すべきですし、事業継承時に将来発生すべき市の負担を明確にするために引当金は計上すべきだと思いますが、再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 稲垣さんは専門家ではないわけですね。税の専門家も同じ質問をしておられます。私は専門家ではないですけども、一応仕組みはわかっているつもりです。野洲病院問題がそもそも何なのか。経営責任もとかおっしゃっています。今、あそこに建物が存在している。これは包括承継という手法をとろうとしているから、実際これをとる場合は基本的に、今の直近の手法では1年3カ月使って、除去しようとしています。ですね。ただ、除去するときには経費はかかる。前みたいいきなり新病院を立ち上げて、一夜にして移る場合は一切市にとっては意味のない財産です。今回のスキームでは、1年半使える。これは有意な財産ですね。でも、これが解体費用と見合うかどうか、いわゆる背任の行為に当たるかどうかということなんですけども、まず手法としては包括承継するから手続上は問題ないわけです。

もう一回、じゃ、詰めていって、本当に1年3カ月使えるけども、それによって、1億円の施設の便宜はあるけれども、例で言っているんですよ、解体に2億かかるんだったら、1億余りの損失が生じるではないかとか、そういった議論を多分しておられると思うんですけども、じゃ、この建物を9億円を貸して建てた、あとの21億円、そのうちの18億円が施設費になっています。これ野洲病院が建てたことになっていますけども、実際は時の理事であった首長とか町会議員さんが判断して建てたわけです。否定はしてはいたけども、私が引き継いだときに皆さんが言っておられたのは、この病院は公設民営ですと言っておられました。だから、建物の登記は医療法人になっていますけども、本当に子細に分析した場合、この建物の解体の責任は誰にあるのか、こういう議論もしないといけないわけです、本当に。要らなくなったときのあの建物を本当に誰がやったかといったら、入

れ子になっているんです。

そういうところまで本当に解明できるのか。それをやることに意味があるのか。だから、これは経営手法として、包括承継という形で、でも野洲市にとってはマイナスはないという試算が出てきますから、基本的に。ただ、5年前、私は何回も言いますように、ハードランディングもありですよと、多額の借金がまだ民間に残っていて、野洲が片思いの損失補償をしていましたから、全部来るかもわからない。そこが積み上げてきているわけで、この今の包括承継というスキームが市民にとっても患者さんにとっても医療法人にとっても野洲市にとっても一番いいということでお示しをしています。この包括承継をやることの意味が議会ができるかどうかは、この大きなスキームを理解した上でやらないと、この建物の除去費だけどうのこうの、後もちっとよく似た質問が出てきていますけども、これで物事は解明できません。経営というのは、全てがよくなかったらだめです、適法の中で。

稲垣さんは専門家ではないので、私は専門家とは議論していますし、ぜひ専門家、それこそ監査法人を入れよとおっしゃるんだったら、監査法人にチェックしていただいた質問をしていただいた方が建設的な議論ができるのではないかなというふうに思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 私、会計の専門家には事前に教示を受けた上で質問はしております。

今はいろいろと答弁はいただいたんですが、野洲市にとってマイナスではないと、何かそういう答弁もありましたけど、キャッシュフローとして変わらないとしても、過去の現民間野洲病院、御上会、法人の経営責任と市の経営責任というのは明瞭に区別する形にしなければならないと私は考えます。でなければ、市がずさんな形で事業継承したと市民より反発を受けるおそれが私はあると思いますので、再度市長に答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 市の責任なのか旧町の責任なのか、あるいはそこで責任を持っていた首長の責任なのか理事の責任なのか。余りにも漠然とし過ぎています。責任というのは何の責任なんですか。何が起こったから責任になるのか。今、何が問題なんですか。

○1番（稲垣誠亮君） 法人としての会計上の責任を私はただ単純に申し上げているだけです。

○市長（山仲善彰君） 会計上の責任、法人は法人が持つべきじゃないですか。ただ、普

通言っているのは何か問題が生じた、破綻があった、事故があった、じゃ、責任は誰かということであって、責任じゃなしに、権限じゃないんですか。権限と責任は違いますよ。普通責任というのは、今言ったような事態が生じたときの責任は誰かですけども、稲垣議員は何の責任を誰がとれとおっしゃっているのか、それも特定しないで、市とか医療法人とか、おっしゃっている。これ、5年ほどやって、全然厳密な質問になっていません。漠然として、何か現野洲市はいいかげんなことをしているというのを何か醸し出すようなことを。そうじゃないですか。じゃ、何が問題の責任を誰がとるのかという質問をして下さい。そうしないと答えられない。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） この今回の場合は市の経営と明瞭に区別することなので、市の経営責任というのは、済みません、私、最後ちょっと訂正いたします。

現民間野洲病院の御上会の経営責任というのは、御上会は当然個人商店ではありませんので、その歴代の理事とか現経営陣のことも含めて、御上会、現民間野洲病院が解散する、清算される中で、清算人がその責任追及は考えることであって、市がその経営責任のことについてどうこう言う立場ではないと思うので、通常の引当金を計上して、本来の会計上の正当な方法にて計上すべきだと思いました。

仮に市長の主張を採用した場合、市への事業譲渡の初年度に病院を移転する予定となっていますが、当然移転時に取り壊し費用が発生するわけであります。しかし、この野洲市立病院の基本計画、精査結果報告書にあります年度別収支計画の清算後の比較表には、初年度において当該の発生費用が見込まれておりません。したがって、年度計画精査表自体の作成の精度に疑義を感じるんですが、再度市長の答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） ちょっと質問の趣旨がわからないし、通告とも違いますし、まず質問の趣旨がわかりません。

○議長（坂口哲哉君） 質問の中に通告外の質問をしないように。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。では、この4番の質問である資産除去債務の取り壊し費用のことにに関して、ちょっと限定して質問させていただきます。

私がどうしてこれここまで言うかといいますと、今回市長は10月の市長選挙において

当選されました。それまでの、今回当選した途端に２段階方式を今回発表されました。部長会議においても、市長当選のすぐの多分部長会議だったと思うんですが、そこで２段階方式について書かれています。従来、私は先ほども剽窃という言葉を使われたように記憶していますが、私はこの病院の建物の解体に関しては一般質問で何回もさせていただいてまして、今年の９月定例会、あと今年の６月定例会、去年の９月定例会、全て同じ質問をさせていただいているんですが、この解体費用の、当時はこの２段階方式が発表される前でしたけど、全ての答弁において解体費用については現民間野洲病院の責任で実施されるものと、そのような答弁を全ての定例会においていただいております。ですので、これを誠実に履行していただくことが、やはり必要だと思っています。

今回の市長選挙においては、この２段階方式については一切説明もありませんでしたので、従来のおりに処理すべきかなと思っていますので、やはり現民間野洲病院の責任において処理すべきでありますので、資産除去債務取り壊し費用引当金を計上すべきであると思いますので、再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 何か選挙とかよくわからないんですけど、まず、２段階方式はこれは５年前の構想段階でも選択肢に入れていました。説明していますように、その当時、野洲病院の債権債務がきちっと把握できていない、それとそのままいけば、当然グロスで見てマイナスが大きい。だから、新病院を建てて一夜に引き継ぐというスキーム、これはいわゆるリーガルフィクションですよ。こんなことはあり得ない。リーガルフィクションでやってきた。でも、一番いいのは、今、この案であって、何も選挙中隠していたわけじゃなくて、内部検討はさせたいけども、公表に耐えるような情報はなかったから、それは当然言えないじゃないですか。

で、なって、私になったから、恐らく私が当選してなかったら、あなたが応援していたような形になるわけでしょう。だから、選挙前にややこしいことを言ったってだめで、うそじゃなくて、この方が野洲市にとっていいわけだから、きちっと説明責任を果たしてやっているじゃないですか。

何か恐らく皆さん、何か私がごまかしたり、うそついたりしていると思っているから、何か全然コミュニケーションが通じないんですよ。あっ、わかりました、今。議員さんとコミュニケーションが通じないのは何かそういう想定しているからであって、全部提供しています。内部の職員に聞いてもらったら、今回これがベストだということは事業を包括

承継しようと、いろんな専門家に相談して、これはいけると弁護士にも相談したり、だから、そうになったら、当然資産は負債と共に野洲市に移管されるわけですから、野洲市が責任を持って病院を解体する。そのメリット、デメリットは詳細にやれば、ほぼ相殺できるという見込みだからやろうということであって。

なぜその引き当てをさそうとしているのか。実際、野洲病院はさっきも言ったようにいろんな資産形成は野洲市の補助金でなっているんですよ。もしか、そこに引き当てをしたところで、こちらに移ってくるお金が少なくなるだけであって、今のこれから新病院が立ち上がるまで、あるいは1年数カ月前に現野洲病院を野洲市民病院として包括承継するまでは野洲病院は健全経営を最大限前向きにやってもらわんとだめなので、わざわざその引当金を実際幾ら要るかはわからない、最終解体して初めて精算ができる金額ですね。普通やったら安全パイで多い目に見ておかんといかん。なぜそんなわざわざマイナスの重しをかけるのか。

私が経営コンサルタントだったら、適正な制度内でそんなことはしません。できるだけ野洲病院を身軽に、企業もそうでしょう。物件があったら、売ってしまって、賃貸でやって、できるだけリスクを軽くした上で身軽に経営するべきであって、今、野洲市が野洲市民としても、現野洲病院ができるだけ制度上、適法な範囲で身軽な経営をして、職員さんが前向きに仕事をしてくれて、患者さんも安心してかかるようなスキームを選ぶべきであって、それが結果的に野洲市に荷物を引き受けるというようにならないのであれば、そのスキームはいいだろうという検討の中でこれをとっているわけで、何か引き当てばかりをこだわっていますけども、ある意味でどちらでもいいんですよ。先に引き当てしておいてもらって、後で清算したっていいんだけども、過大に引き当てて、いずれにしてもその全てが野洲市に包括承継されるわけですから。

稲垣議員は、包括承継をよしとしているのか、していないのかということですよ。マルもバツも一気に引き受けようというスキームで、まずは病院を先に、これは金銭換算できない価値を持っているんですね、さっき政策監も言ったように。患者さんの移行もスムーズだし、さっきちょっと質問しかけて、ちょうど意味不明だったから、趣旨も合っていないから閉じてもらいたいけども、初期のお金も要らない。もう既に病院事業を持っているということで要らない。これは経済的には価値は生じません。まさに交渉の中で場合によっては高く売れる部分でもあるかもわからない。だから、そういうスキームの中でやろうとしているのに個別ばかりつついてきて。それで説明は十分できています。引き当てする

必要はないと思っています。やることはむしろマイナスになる、これがお答えです。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。会計上の認識が市長と私では大きくずれがある現状だと思いますので、これ以上このことについては話してもちょっと平行線にはなると思うので。ただ、私は従来、議会、今、答弁で私実際、政策監だったと思うんですが、御上会の責任において処理するとありましたので、単純に、ではその議会の答弁どおり、除去債務を引き当てて下さいと申し上げただけです。

また、それも病院なので、会社ではありませんが、会計ルール上、私もこれは会計の専門家に確認しておりますが、適正であると判断しておりますので、単純に野洲市が株式会社野洲市というものがあって、私が、自治体なので、株式会社ではありませんけど、株主の1人であるというふうな認識に立てば、経営の数字の明瞭化という点で、やはりそれは必要だとは思いましたので、答弁させていただきました。

では、次の質問に移らせていただきます。

取り壊し費用と想定される4億6,246万円の積算根拠についてお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、5点目のご質問についてお答えをいたします。

現野洲病院の建物施設の延べ床面積は1万459平米で、平成27年度に実施されました他病院の解体工事費用を参考に算定した解体工事費用の平均額につきましては、工事に係る諸経費などを含めて1平米当たり4万円程度になりました。この解体工事単価に延べ床面積1万459平米を掛けますと、4億1,836万円になります。これに機器処分費2,985万円、解体工事の工事管理費用1,425万円を見込んで加算した額として設定をしております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 1平米当たり4万円ということなんですが、以前1平米当たり5万円で答弁でお伺いした記憶があったんですが、4万円になった理由についてお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） この4万円といたしますのは、稲垣議員が先ほど言わ

れました8月の議会答弁の中でも4万円というご説明をさせていただいております。それと変わってございません。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。では、これ、正式に見積もりをとったものではありませんが、見積もりを仮にとったとしましたら、現状この数字に本当にごく近い数字になるということで理解してよろしいのでしょうか。再度答弁を求めます。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 一応、市場調査という手段で平均値を算定しておりますので、大きなぶれはないと思います。ただ、多少の高低は発生すると思いますけれども、それはそのときの市場の需給のバランスですね。仕事が多いか少ないか、業者の仕事の持ちぐあいとか、そういうところにも、契約でございますので、影響を受けますので、絶対この金額になるということとはございません。ただ、市場調査の結果はこのような状況、実態ですので、ほぼこれでいけるというふうに見込んでおります。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。

次、移ります。

事業譲渡時における本市が現民間野洲病院に有する貸付金の残額についてお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、6点目のご質問につきましては、平成30年度末の本市の野洲病院に対する貸付残高は2億2,600万円になります。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。

では、次、移ります。

譲渡前に現民間野洲病院の流動資産については、前段等の本市が同病院に有する債権と相殺、もしくは返済した上での資産、事業譲渡に向けた立案をすべきであると思います。同様に法人としての経営責任を明確化するためにも、また先ほど申しました明瞭化のためにも必要であると思いますが、政策監の見解をお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、引き続きまして、7点目のご質問について回答をいたします。

まず、現行の事業譲渡の提案内容は、先ほどもご説明しましたように資産、負債、権利義務等を包括的に全て無償で譲渡を受けるという前提で試算をしております。今後、御上会野洲病院との事業譲渡に係る協議を深化させていく中で、ご意見のような手法の方がより合理的であるということになれば、そちらを選択する余地はあると考えております。

ただし、そうした場合においても、御上会から承継されるプラスの資産が減る一方で、その分が繰上償還金として形を変えて、先に市に入金されることになるだけでございまして、実態としては変わらないものと考えております。また、経営の最終局面ではあるものの、野洲病院の財務状況を悪い方に仕向ける対応で、企業体としての重要な組織のモチベーションを低下させ、運営上のリスクを高める可能性があるもので、前向きな考えではないというふうに考えております。

また、経営責任の明確化につきましては、先ほど申し上げたとおり、追及せよと言われるならば歴代の理事を個別にただしていくことが必要になりますが、それはあえてしないというのが今の考え方でございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 実際、今、答弁がありましたけども、モチベーションを低下とはありましたが、要はキャッシュフローが同じだという、先ほど4番でもありましたけども、7番でも結果的にはそのキャッシュフローは変わらないとはしましても、やはり現民間野洲病院の御上会の法人としての責任を終えた上で、最終的にその場合、法的清算をした場合、それでも対応できない場合は市が結局は対応することになって、キャッシュフローとしては同じだということだとは思いますが、物事の法人としての経営責任、順当性、正当性としては、やはり私は正攻法だとは思っているんですが、例えば債権放棄という言葉がありますけども、それを行うにしても法人としての、法人、個人、債権放棄がありますけども、きっちりと責任が追及された上で行うものであると思いますので、これは今回それにも似ている要素があると思いますので、債権を返済された上で実施をすべきであると思うんですが、そのあたり、ちょっと答弁を求められるようでしたら、お願いします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 何か終始一貫して野洲病院、私は透明化は大事ですけども、新病院ができれば野洲病院は解散するということまで来ているわけです。前は野洲病院の自律性もあって、モラルハザードもあって、さっきも野並議員も一方通行と書いてあっても通る人もいますからということで、やはり人間というのは幾らルールがあってもモラルハザードを犯す可能性があるので、野洲病院の自律性ということで解体は当然野洲病院ですよ。でも、その後包括承継という双方がメリットがあるスキームになってきたので、これ私はどちらでもいいと思うんですよ。でも、それが、やはり貨幣で評価できない企業の経営意欲とか、そこに響いてくるわけなので、どちらでもいいんだったら、前向きな方に持っていくのがこれは経営です。

稲垣さんはお得意じゃないですか、職員が前向きに仕事ができるようにとか職場が明るくなるようにと、何もそんな声をかけてなくも職員さんは仕事する。けども、一声かけるかかけないか、職員に向き合うか向き合わないか、これが経営ですよ。今、あなたが言っているのは、今、現野洲病院は新病院効果もあって、スタッフも前向きに頑張っている。あえて、そこに潜在的な負債を明らかにする必要があるのかどうか。除去費が4億幾らともはっきり言っているわけです。残る負債は幾らと言っているわけです。でも、それを直接その事業会計の中に繰り入れるか繰り入れないかというのは、やはりこれは、いわゆる景気というのは心技と一体ですね。心技に響く。モラルに響く。だから、私はどちらでもいい。

今日、回答する質問も本当はどちらでもいいことばかり聞いてはるんですよ、基本的には、あえて言えば。私は否定しないけども、さっき言ったように職員が前向きに仕事するかしないかと同じレベルの違いを、残念ながら専門家が聞いてきておられるんですけども、これは、やはり経営コンサルタントがやるべきことであるし、もう稲垣さんも私に一応託されているわけですから、強権的にやるつもりないですよ。でも、これはどちらでもいいんだったら、私に任されて、皆さん方が通していただけるかどうかなので、稲垣さんにはそうお答えしておきますから、後は議員の皆さん方が市民の総意を受けて、判断していただいたらいい問題であって、これ以上言葉を尽くしても出口が見付からないと思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） 先ほどからモチベーション、モチベーションという言葉が答弁で出てきたんですが、職員さんにとってはこの潜在的な負債を抱えたとしても、それは2段階方式の前提での話なので、職員さんのモチベーションが影響するということはないと思

うんですが、そのあたり、ちょっともう少し説明、政策監、よかったら求めたいんですが。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） どんな職員さんか知りませんが、普通は組織で忠誠、組織の発展を全ての職員は考えないとだめで、野洲市でも同じことで、全ての職員が野洲市の健全財政、市民のためによりよいサービスができるという、全ての職員が思っていなかったらだめであって、いわゆる経営者、理事者だけがそんな思いを持っている組織というのは健全ではないと思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。ありがとうございます。

次、移ります。

新野洲市立病院整備に伴う現民間野洲病院の職員退職金については、概算費用で幾らを想定しているのか、お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、8点目のご質問についてお答えいたします。

この件は、前回の8月議会でもご説明しております。この内容をもう一度申し上げますと、野洲病院は企業型確定拠出年金制度に加入しておる事業所であります。要退職金支払い総額2億6,500万程度を満たす積み立て資産総額は3億4,300万程度を当制度に拠出されていることを書面をもって確認させていただいております。

また、補足的に申し上げますが、医療機関という事業所は専門職が多いため雇用の流動性が高く、退職後資金にはポータビリティが求められることになります。そのため、民間の医療機関には退職金制度ではなく、野洲病院のように企業型確定拠出年金制度によって、従業員の退職後の支給を保障するところが多いということをご認識いただきたいと思います。

以上、ご説明とさせていただきます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。今のを解釈しますと、もう積み立てていますので、それ以上何ら退職金に関する債務を法的に負わないというふうに僕は理解できたんですけど、間違いないでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） そのとおりでございます。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） では、次の質問に移ります。

（仮称）野洲市民病院整備事業特別委員会における資料には――これは前段とちょっと答えていただいていますので、不必要かもしれませんが、一応質問させていただきます。現民間野洲病院の解散に伴う職員退職金の記載がないのですが、引当金が既に計上済みであるということなのか、お伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、ただいまの9点目のご回答につきまして、ただいまの、先ほど申し上げました8点目の内容をお答え申し上げたことでご理解いただけたと思います。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。

では、最後の質問に移ります。

市の計画では、公募や選考により現民間野洲病院のスタッフを中心として新病院が運営されることが想定されており、過去の政策調整部の答弁では、現経営陣も同様に公募選考されることでありましたが、これまでのこれは個人ではなく法人としての経営責任を明確にするために現経営陣については、これは個人の資質がどうのこうのということで私は申し上げているわけではありません。そこは誤解のないようお願いいたします。あくまでも法人の清算として、やはり経営陣については採用を除外するのが適当であると思います。補足ですが、やはり一般的に法人の解散の場合は清算人により解任されるのがよほどの特異な例ではない限りは社会の通念上だとは思いますが、こちらに関してはお伺いいたします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） さっきははっきりしてもらわなかったんですけど、責任、責任とおっしゃるんですけども、何の責任なのかがわかりません。

○1番（稲垣誠亮君） 法人としての責任です。個人としては私は提案しておりません。

○市長（山仲善彰君） いやいや、だから、法人として何の責任があるんですか。

○1 番（稲垣誠亮君） 経営責任ですね。

○市長（山仲善彰君） いや、経営責任はあるんだけど、だから、経営をしてきたんだっ
たら。

○1 番（稲垣誠亮君） 私は純然たる法的債務整理のことを申し上げております。過去の。

○市長（山仲善彰君） 円満に解散ができるわけですから、だから、何の責任が生じてい
るのか、意味が私はわからないんですけど。具体的に今回のこの事態、うまく野洲の市民
病院に引き継げてきているわけでしょう。いろんな課題があったり、問題はあったか知ら
んけども、いわゆる有終の美が図れる想定が今できてきているわけなんですから。それに
責任をとるんですか。むしろ功労でもないんですか。功労までいくかどうか知らないけど。

さっきからずっと聞いていても、何か仮説があって、虚心坦懐に物事を見ておられない。
それと、よくわからないんですけど、稲垣さんはまず選挙が終わったから、今のこと私た
ちが掲げてきた、2 段階方式は11 月以降に出しましたけど、もともとからスキームでは
あるけれども、野洲病院の経営条件がよくなったとか、いろんな債務関係が明らかになっ
たのを検証したから、そうなんですけども、現野洲病院を市民病院にして、そこで建て替える
とおっしゃっていた。それは変わってきていて、今の経理の明確化とか責任の明確化とか
いう路線に今移ってきておられると理解していいと思って、私は答えているんですけど、
それなら責任というのは何なんですかと。もう現野洲病院を建て替えるとか、そういう話
はもう消えているという前提で、今は責任問題に集中しておられるのと、潜在的な債務を
明らかにせよと、どちらでやってもいいと、私たちは答えていますから、これはそんな大
きな論点じゃないと思います。それなら、責任というのは何なのか。誰がどの経営責任を
負うのか、もう一回明確にしていいただいたら、私はお答えをいたします。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1 番（稲垣誠亮君） 答弁を聞いていますと、感情論ですね。感情論がすごく私、多く
て、ちょっとそれは市長からそういう感情論を聞くのは意外なんですけども、私は責任と
は言っていますが、あくまでも法的整理のプロセスを王道といいますか、正当な形でし
て下さいと言っているだけなんですよ。何も功労が、していただいていると思いますよ、
実際に。誰もなかなか引き受け手がない中、よく頑張っていらっしゃると思います。ただ、
その感情論と正当な法的整理のルールとは全く別個のものでありますので、私はその意味
で通常清算人により解任されるのが法人解散の場合は自由ではありますので、その意味で
この質問をさせていただいていますが、再度答弁を求めたいと思います。お願いします。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 清算人によって解任されるから。だから、誰がその責任。感情論では私はないんですよ。誰が何の責任をとるのか。だから、野洲病院という医療法人を閉じるということの責任というものが存在するかどうか。閉じるという事実は想定されていますけども、それがどういう責任に関わってくるか。

○1番（稲垣誠亮君） 単純に採用除外するということで。

（「今のに近いな」の声あり）

○1番（稲垣誠亮君） 採用除外するということで。

○市長（山仲善彰君） わからないから聞いているんですよ。

（「だから、それは反問ですね」の声あり）

○市長（山仲善彰君） じゃ、聞いているんじゃないしに、その確認の上に答えようとしているわけであって、だから、答えられませんと言っているんです。

（「それは回答でしょう」の声あり）

○市長（山仲善彰君） ちょっと休憩。ちょっともうやじひどい。やじがひどいというの本当にひどいでしょう。

（「議長が話しされるんですよ。市長が言うことではないんです」
の声あり）

○市長（山仲善彰君） 答弁しにくい。

○議長（坂口哲哉君） 議場の中では、答弁とそうした問題がありますので、しにくくなります。しゃべらないで。

（「答弁がずれているからですよ。ずれているんですよ。簡単明瞭と最初言われてきているでしょう」の声あり）

○議長（坂口哲哉君） 答弁は簡単明瞭で簡潔にしてくださいねんけども、それだけの中身は続けてやらなきゃならん部分もありますので、だから、議長が采配でしています。

（「お願いします」の声あり）

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1番（稲垣誠亮君） わかりました。大変ご丁寧にご答弁いただきまして、ありがとうございました。

以上で、一般質問を終了したいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 反問ですか。

○市長（山仲善彰君） 反問します。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩いたします。

（午後 1 時 5 4 分 休憩）

（午後 1 時 5 5 分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

市長。

○市長（山仲善彰君） この反問制度はやりとりが好きなようにできないから、私はずっと聞きたかったんですけどね。さっきちょっと触れましたけど、答えられなくて。まず、はっきり言いますと、稲垣さんは 10 月までは現野洲病院を市民病院にしてそこで建て替えたらいいと、建て替えられるとおっしゃいました。私たちは違うと言ってきた。2 段階方式を具体化しましたがね。まだ現野洲病院を市民病院にして、その敷地で建て替えるという、いわゆる政風会案を是としておられるのか。今日のご質問は、私の理解からすると、会計処理の問題とか、そういうことでしたから、責任の問題とか。駅前に新病院を建設しつつ、手続として 2 段階方式をとるという案に基本的にはご賛同いただいた上でのご質問、ご提案なのか、そこを明確にしていきたいと思います。

○議長（坂口哲哉君） 稲垣議員。

○1 番（稲垣誠亮君） では、反問についてお答えしたいと思います。

確かに市長が市長選挙で当選されたことは大変重く受けとめなければいけないと思っています。ただし、私は先ほど申し上げましたが、実際建物の除去費用のことについても、改選前の答弁内容とちょっと今、違う方向にも進んでいますし、2 段階方式についてもちょっと、以前は御上会の責任において解散した上で病院建設を進めるという案で説明を受けていましたので、内容自体はちょっと変わっていますので、これはこれからの説明を聞いた上での判断になると思いますので、今、私が今ある材料だけでお答えはできないと思います。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 次に、通告第 10 号、第 4 番、丸山敬二議員。

○4 番（丸山敬二君） 第 4 番、丸山敬二です。

先月 11 月 24 日から 25 日、野洲小学校の 6 年生が修学旅行で広島の方に行ったようです。学校に帰ってから、広島の方から電話があったようで、野洲小学校では児童の修学旅行では移動のときは公共交通を使うということですが、そのときに交通機関に乗車

しとるときのマナーが非常によかったと。車内でも騒ぐことなく、おとなしく、非常によかったと。「どこから来たの」と聞いたら、「滋賀県の野洲市」からという、はっきりと対応できたということで、すがすがしい気持ちになったというような電話が小学校に入ったようです。野洲小学校のそのときの対応した先生も、最初は何か物を忘れたのかと思ってたんやけど、そういうことやったので、涙を流しながら電話の対応をやっていたと、こういう非常に美しい話を聞きました。

この辺も日ごろの学校の先生方の何気ない教育の中でもこういったマナーが自然に身に付いてるんじゃないかなと思いますので、引き続き、そういった指導の方をよろしく願いしたいなと、このように思っています。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩いたします。

（午後 2 時 0 0 分 休憩）

（午後 2 時 0 1 分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

丸山議員。

○4 番（丸山敬二君） それでは、質問に入らせていただきます。

（仮称）野洲市民病院整備事業の進め方についてということで、この病院問題は佳境に入ったといいますか、スケジュールがこれから非常に重要な時期に向かっております。そういう意味で、私もこれまで何点か質問させていただきましたけども、本会議場においては今日はこれで最後にしたいなと思っていますので、答弁の方も真摯な答弁をひとつよろしくお願いしたいと思います。

まず最初に、先日の市民病院整備の特別委員会の中で私がちょっと質問したことがあるんですけど、あのときは時間が短かったので、そう議論はできておりませんけども、ここで再度お伺いをしたいと思います。

弁護士事務所への調査委託について、特別委員会で私がちょっと記憶にないということを行いましたら、8月の補正予算で計上したということでしたので、調べてみたら、衛生費に計上されているのを確認しました。議案説明のときにはどこまでちょっと説明されたのか、わからなかったんですけど、私のその議案説明資料の中には何か野洲病院との協定書の作成を弁護士によりとか、ちょっとメモってあるんですけど、これとはちょっと内容が違うのかなという気はしますが、いずれにしても、そこで弁護士事務所からの報告書、これが10月14日付の報告書になっています。定例会は最終日が9月16日だ

ったと思いますので、この報告書を作成するまでに延べ日数でも１８日、営業日でも１０日ほどしかありませんので、短時間にここはできたのかなという、ちょっと気がしますので、その辺の委託契約日についてお伺いをいたします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、１点目のご質問につきまして、ご回答させていただきます。

本件の委託業務の弁護士調査業務委託の委任契約日は９月１６日であります。

以上で、ご回答とさせていただきます。以上です。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） ９月１６日ということで、ホームページをいろいろ見たんですけど、契約状況のところ、工事やとか委託といろいろあるんですけど、その中でも、見たのが政策的随意契約締結状況とか、それから、もちろん衛生費だったので、健康福祉部いうのも見せてもらいました。それから、政策調整部も見たんですけど、これ見当たらなかったんですけど、どこかにアップされているんでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 本委託業務は通常の工事とか測量とかと違いまして、特に定例的にそのようにホームページに掲載しておりませんので、掲載はございません。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） いや、今言いました政策的随意契約締結というのはこれ委託費なんですね。それから、言いました健康福祉部いうのも委託費です。ほとんどがこれ書いてあるのは４月からずっと手話通訳の委託やとか、いろんな委託です。政策調整部の方も見ました。これも委託費なんですね。だから、委託いうて、これ工事は工事で別にありますね。工事のは非常にわかりやすいんですけど、工事というか、この分の中でも工事と委託費というのがあるんですけど、どこを見てもなかったんです。ちなみに政策調整部では４月２１日と６月１５日の２つですね。これしかないんですけど、何で今のは入れないようになってるんですか。じゃ、他にもアップしないようなものがあるんですか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 特に入れない意図はございません。これは市の顧問弁護士、益川総合法律事務所の方とこの病院事業において以前からいろんな面で相談業務

を行っております。その中で顧問弁護士の委託の中の個別案件というところで、今回の新病院の開設に向けた検討という調査をしていただきましたので、この件について委任の委託業務をしたということでございます。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） 顧問契約とはまた別の内容と違うかなと思うんですけど、これはこれで別個に予算をとってやっているんだから、他の委託と同じ扱いじゃないのかなという気がしますけど、ここで細かいことを聞いてもあれですけど、じゃ、この報告書の中に益川事務所が出した報告書ですか、その中に８月２３日に県庁へ市の方と一緒にいったというのがこの報告書に入っているんですけど、さっきの委託の内容でいけば、９月１６日に委託契約をやっとるんやけど、こういったやつはこれとこの内容とは違うことですか。顧問契約の中でいっとるということですか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） この内容につきましては、８月２７日、県の市町振興課の方にこの野洲新病院の開設に向けた検討の中でいろんな課題がございましたので、一緒に同行して協議をしに行っているんです。ですから、これはあくまで新病院の開設に向けた、先ほどから話題になっています承継方法などにつきまして、顧問弁護士の範囲内でいろいろ相談を受けていただいております。その中の一環の協議事項として市町振興課、県庁の方に同行していただいて、その対応をしていただいております。

今回のこの業務は、改めてそのような通常の顧問弁護士で行ってございました内容をまとめていただくと、いろんな情報がある中でそれを一定、法の解釈に基づいて、今回のこの業務は新病院の開設に向けた検討というタイトルで、題目で各重要な項目についてはまとめていただいて、作業をしていただいた業務ということになります。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） ちょっと顧問契約がどういう契約の内容になっているのか、わからないので、ここから先はわかりませんけども、これはこれでいいとして、もう一つ予算のとり方ですね、勘定科目も何か変だなという気がするので、この辺は覚えとれば、決算認定のときにでもまたいろいろ聞かせてもらいます。

それから、じゃ、次に行きますけども、その契約当初から、例の立体駐車場の話、これ

を計画当初は病院事業とは別やと、別でやるんだということでしたけども、11月4日にありました特別委員会で病院事業でやるということで、どこでそういう説明をされたんですかと聞いたら、前回の特別委員会か、どこかで言ったというような答弁やったと思うんですけど、それで前回の特別委員会の議事録とかを見たんですけど、そういった発言があったのは見当たらなかったんですけど、どこで、どの場面でどういうふうに言われたのかをちょっとお伺いします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、2点目のご質問につきまして、お答えをいたします。

過日11月4日に開催されました(仮称)野洲市民病院整備事業特別委員会の説明では、立体駐車場の運営を病院事業で行うことをご提案しております。この件はかねてから課題であった立体駐車場の運営方法について検討結果を今回お示ししたもので、病院事業会計と単独の駐車場事業会計で行う場合の検討結果に基づき決定をしたものでございます。

ご質問の11月4日の当方の答弁といたしましては、立体駐車場の基本設計は病院本体の基本設計とあわせて現在の基本設計業務で行っていること、この基本設計のプロポーザル審査の経緯と決定した設計内容をご説明いたしました。特別委員会の議事録、資料を確認しましたところ、まだ私が言いましたこの内容は8月19日に開催されました特別委員会でご説明をしております。ただし、当日の特別委員会の基本設計業務委託の契約に係る資料、資料3という名前の資料がそれに当たりますけれども、一部記載に不足があったことから、わかりづらい内容になっておりました。

また、過去には各種検討委員会における、検討委員会などに提案する前に議会の特別委員会に示したと問われておりますが、市立病院事業に係る案件につきましては、以前より各検討委員会などの審議を得た後に議会の特別委員会にご提案、審議していただいておりますので、今回の特別委員会に付議させていただきました手順につきましては、通常の手続であるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） まだ聞いていないことまで言われて、いろいろ言われたら、わからへんのですけど。今聞いたのは、この事業がやるのを変わったのはいつ言うたのですかと聞いたんです。各種委員会とかの前に説明しているとか、そんなのはまだ聞いていない

です。これから聞くんです。

8月19日の議事録を持ってきているので、今、ちょっと8月19日に言うたというて言われたと思うんですけど、何ページになるか、教えてもらえますか。ちょっと私は見落としとるかもわからないので。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 8月19日の議事録は4ページです。4ページの下段にあります。続きまして、11ページをご覧下さい。このところからずっと4行にわたって、この内容になってございます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） これは事業を変えたとかいうんじゃないくて、あのときの11月4日のときも、私も今、政策監で言われるような内容をちょっとメモっています。基本設計に入るときに云々いう、何か建築確認があつてどうのこうのとか、渡り廊下でつながからどうのこうのとか、こういう話があつたと思うんですけど、事業を別事業から病院へ持ってくるというのはどこからもちょっとわからないんですけど、そこを聞いとるんです。事業が変わった言うたのはいつですかと言うて。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） その駐車場の事業を今回病院事業であわせて行うものというふうに説明をいたしましたのは、11月4日に開催されました特別委員会が最初でございます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） わかりました。絶対そうですわね。この整備の関係でちょっと調べましたら、確かにさっきもちょっと議論がありましたけども、10月24日の部長会でこの立体駐車場は病院事業とは別や言うと思ったけども、病院事業でやりますよという提案をするんやというのは部長会で言われていますね。そこからなんですけども、24日に部長会があつて、いわゆるここで初めて公表されたのではないかなと、公表といってもこれは部長会議のことですから、庁内だけの話やと思いますけども。26日に全員協議会がありましたけども、このときには話はありませんでした。28日に特別委員会の資料だということで、メールで配信をされてきました。11月1日には運営評価委員会でこの内容を説明して、11月4日に初めて委員にこんなことやというのを知らされました。

やはり、これでは我々は検討する時間が非常に少ないんですね。ですので、先ほどちょ

っと政策監がぼろっと漏らしましたが、以前にはこれは基本計画のときには例の評価委員会を立ち上げております。このときに評価委員会の前にはこんなことをやるんやということを特別委員会の方に示して、それで、次また評価委員会をやるときには前回の評価委員会がこんな答えをもらいましたと、次にはこれをかけますと言うて、順番が丁寧にあったんですよ。今回は、今言うたように、運営評価委員会にかけて、ぼっぼっと出てきている。その後、ちょっと検討する時間もないということなので、この辺の仕組みをちょっと変えていただけたらありがたいなと。運営評価委員会の前にここを出してくれば一番いいんですけど、例えば評価委員会で意見をもらって、特別委員会に示して、それで次、もう一回特別委員会でその内容を議論するとか、やはりちょっと時間をいただける方が一発出して、さあ、どうやでなくて、そういうことをやっていただけるとありがたいんですけども、いかがでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 先ほどご説明いたしましたとおり、これは平成23年6月からあり方検討の委員会から、それでこのときは全協などに報告されておりました。その後、各委員会は都市基盤整備の特別委員会、それと、今、病院整備の特別委員会に移行してございますけども、丸山議員はそのようにおっしゃいますけども、全体、平成23年6月からずっと見通しますと、このような専門家の方々、有識者の方々の意見をしっかり踏まえた案として、市議会の特別委員会などにご提案させていただいているというのが通常の流れでございます。

ですから、専門家、有識者の意見をもって、中身の整った内容を議員の皆様に審議していただくという趣旨でございますので、このような基本的な流れは決しておかしいものではなく、合理的な方法だというふうに考えております。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） それならそれで結構なんですけど、言いましたように、評価委員会、委員会の後で意見をもらったやつを出していただくということはそれは議員側の検討も非常にやりやすいというか、めちゃくちゃ意見出すばかりじゃなくて、専門家の方が意見を出していただいているので、それをもとにやればいいので、それについて特別委員会がもうちょっと時間をかけるなり、こんなことをやったんですよというのを示して、別途、日を設けていただくなり、あるいはそういった委員会をやった後の資料を事前に配付して

いただくとか、要はそういう議論できる時間をとっていただければと思います。そのような、今言われたやり方、こうやと言うんやったら、それではいいですけども、議員側がそういった議論をしやすいようなやり方をやっていただきたいということですけども、これをお願いしますけど、ちょっと答えをいただきますわ。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） お申し出の件は、その提案内容についての一定の審議の時間が必要やというふうな趣旨でございましたら、特別委員会は市議会の方で設定していただいて、どちらかという、私どもはそれに対してご提案の作業を行うというものでございますので、また議会事務局などにご協議いただきまして、その辺の段取りは詰めていただければなというふうに考えております。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） わかりました。じゃ、そういうことで特別委員会の方にも、委員長の方にも要望しておきます。

そしたら、次のところに行きますけども、同じ4日の委員会のときに、駐車場の問題で市の遊休地を使うというところがあって、どこですかと聞いたら、今は言えないという答弁やったんですけど、なぜ言えないのかをお伺いをします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、3点目のご質問についてお答えをいたします。

このことにつきましては、なぜ言えないのかと、駅周辺で市の遊休地を想定しているところがあるのかとのご質問でございますけども、具体的に事務事業を進めている中で、庁内の事務レベルの検討において実現の可能性が一定あるために、今回の計画として提案させていただきましたが、決定段階とするまでには関係する他の事業との調整、それと関係者との協議、さらにとるべき手続があるわけでございます。曖昧にしているのではなく、公式の場で具体的にご説明できる段階に至っていないということから、具体的には言えないというご説明をさせていただいたわけでございますので、どうぞご理解いただきたいと思います。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） 今の市の遊休地となっているのは、それ以前にはそうじゃなくて、確か民間の駐車場を借りるとか何かとなっていたと思うんです。それが市の遊休地というて、もう変わってきているので、そこで民間のその駐車場、または市の遊休地とかいうんやったら、今言われたようなことはわかりますよ。だけど、民間の駐車場言うといたのが市の遊休地と変わってということはどこかに候補地なり、そういったところがあるのではないかなと我々は思っ取るんですよ。だから、それはそういう説明をしてくれたらええと思うんです。今、思い当たるのには、そういうあれ何台でしたっけ、結構ありましたけど、そういうところが周辺には遊休地があるとはちょっと思えないので、それでちょっと伺ったんです。何で言えないのですかと。

今の南口の周辺整備に合わせてどこか、それに関連する、今検討しようとしとるとこじゃなくて、それ以外のところにそういうところがあるんやというんやったら、そういうところにあるんやというのを教えてもらったらいんですけど、今度の病院計画している近くではそんなところはないんと違うかなと思っているので、聞いたんです。候補地でもいいじゃないですか。あれば、教えて下さい。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） 台数とは８０台程度を駐車する場所としております。候補地といいましても、今、ここで申し上げますと、先ほど言いましたようなことが関連してまいりますので、本日はちょっと控えさせていただきたい。

そのあたり、私が言いましたような内容は明らかにできるようなときになれば、速やかにお伝えしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） 土地を買収するとか、そういうことであれば、わからんでもないんですけど、市の遊休地となっ取るんですから、市の所有地やから、何でかなというのがわからんですけど、これを言っても平行線やと思います。

じゃ、次のとこに行きますけども、今回、２段階方式いうのを提案されておりますけども、これ、政風会が提案したものと非常に似ているんですね。ということなので、これはええ案やというてやるようになったのか。先ほど市長の話では５年ほど前からこんなことがあったんや言うけど、ちょっと全然聞いたこともないですが、この辺は政風会の案がええでということやろうとしておったのか、いつごろから検討を始めたのか、お伺いをい

たします。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） それでは、４点目のご質問にお答えをいたします。

今回の市の提案は、新しく安全な市民病院を平成３２年１０月に野洲駅南口で開院するため、１年前の３１年７月という、新病院の工事に着手しまして、後の工事期間中に入っております。この時期に現野洲病院の施設を使った暫定的な市民病院をスタートさせることを具体化したものでございます。これは従来から実施を想定していた工程でしたが、野洲病院の経営や債務解消の見通しにこれまで懸念があったため具体化できなかったものがあります。したがって、野洲市民病院の計画自体を何も変えたものではございません。

当然、政風会がお示しになられている未耐震の東館の改築の課題を先送りにしたまま、現野洲病院をとりあえず市民病院化をされるというだけの案とは類似するものでないものというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） 東館の話ではなくて、野洲病院をまず市立化しようということについては同じじゃないかなと。当初、開院ぎりぎりまでやって、そこで切り替えするんやという話でしたけども、あるとき、確か市長がちょっと前にやる方法があるんやというのは聞きました。具体的にいつとか、そういう期日的なことは聞いていませんけど、あつ、なるほどええ案やなと、そのときは思うていました。政風会がそういったことでチラシに入れて市民に知らせたり、政風会が言ったのは、ここで議案修正のときの修正の多分説明の中であつたと思うんですけど、そういうことでいけば、２段階方式をやるということについては、そのことについては政風会と非常に似ているのと違うかなと。私はそこでそれをええ案やなということであるのならば、政風会と一緒に、やっぱり考えていくべきやと。いや、もう執行部は執行部、議会は議会やいうて、本当こうやる行き方がええんかどうかね。だから、ここはすんなりと、いや、あれはよかったから採用したんやと、そう言うてほしいなという気はしますが、その辺はどうなんですか。

○議長（坂口哲哉君） 政策調整部政策監。

○政策調整部政策監（大藤良昭君） ここに当時、これ今年の５月に出されております政風会さんの今の丸山さんがおっしゃった案を見ているんですけども、今の現野洲病院を市立病院化するという方針はこの瞬間を見れば、同じような、似ているんじゃないかと言わ

れるんですけど、先ほど言いましたように、あくまで私どもの市の案は、暫定的に円滑に病院を移行するための措置として前段で今の現野洲病院を市立病院化するという考え方で。ですから、この31年7月にはもう既に駅前の方で工事が始まっておりますので、新しい病院を前提とした暫定的な現野洲病院の施設を利用して、約1年少々の期間に限定して市立病院とするというものでございますので、政風会の方からご提案された内容とは基本的に考え方が全く異なっております。

それと、政風会さんの案は東館の問題じゃないというふうにおっしゃいましたが、東館の問題は必ずいずれかの方法で解消しないといけない方法ですので、このあたりの方針が全くお示しがなかったということも今回の考え方が違うということもございます。

以上です。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） いや、それはそれでいいんですけど、私かて、政風会の案が絶対ええとは思っていません。ですから、以前に郵便局へ行ってもろてどうですかとかいう話も私は出しました。本当はあのときに郵便局が大規模改修するからいうて諦めるのではなく、やっぱり野洲市のためにとか、こういうことで交渉をもっとしてほしかったなと、そういう気はしています。

で、今の分については政策監の言われるのはよくわかりますので、私は政風会の言うのもかなり無理はあるとは思っています。だから、それがいいとは言いませんけど、似たような案やったら、ちょっと頭をなでてやるぐらいやってもよかったのかなという気はします。

では、次のところに、次からはちょっと市長にお伺いをしたいんですけども、市長への手紙の中で最近、病院は賛成だが、駅前反対とかいうのがよく出てはります。市民の中でも駅前はやっぱりあかんど反対やというような声をよく聞きます。こういうこともあるので、やはり本当に市民の意見を聞く場を設けて、本当に意見を聞いて、最終のゴーを言ってほしいなと、このように思うんですけど、市長、この辺はいかがでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 病院について市民の意見を聞くのは大賛成ですけども、今のお話は意見を聞いた上でもう一回立地場所まで見直すというご趣旨なのか、ちょっとそこがはっきりしないんですけど、さっきの稲垣議員のあれでもスキームの問題とか透明性の問題であって、丸山議員には私も反問しませんが、丸山議員は今のこの駅前で政策監が説

明した、こういう方針でやっていくことが賛成なのか、もう一度駅前がいいですか、悪い
ですか、他の場所がいいですかということまで市民に聞いた上で判断した方がいいとおっ
しゃっているのか、ちょっとそこをはっきりいただかないと答えができません。聞くのは
大賛成。でも、何を聞くのか、あるいはどういう課題を聞くのか、そこをはっきりいた
だきたいと思います。

（「それを書いとった」の声あり）

○市長（山仲善彰君） いや、だから答えられませんかと言っていました。そこを言わない
と聞きます言うたら、場所も含めて市長はもう一回聞くというふうにとられるので。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） 答えられないという答弁をいただきましたけども、先の選挙のと
きも、言うたら、僅差ですわ、言うならば。片や駅前に病院、片や駅前は病院だめですよ
という中で僅差になっているということは、市民の声は民意はどちらにもおるいうことな
んですよ。ですから、もっと広いところの駅前の懇談会をやりましたとかいうのは、もう
限られたとこだけなので、やはりもっと全市にわたった、こういった意見を聞く場という
のは私は大事やと思います。

で、これ京都新聞の10月25日の社説に出ておりました。選挙の後、翌日ですね。こ
の中で「野洲市長3選、病院計画慎重に推進を」という見出しで、3期目に臨む山仲氏は
より謙虚に市民の声に耳を傾ける姿勢が求められる。病院計画については市民の理解を
広げるため、丁寧に説明し、必要であれば内容の見直しにも柔軟に取り組んでほしいと、こ
ういう趣旨のことで書かれています。こういったことで、市長には市民の声を聞く気はあ
るんですか、ないんですかと言うたら、答えられませんかということでしたんですけど、今
の分でどうでしょうか。市長。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） ですから、駅前にここまで、何1,000万もお金をかけて、今、
基本設計をしています。ご説明していますようにもうレイアウトとか、そこまでやってき
ているのにこれは駅前を外すこともあり得るというので、聞くというのは、これは私は無
責任です。

それと、僅差というのは私も謙虚に受けとめています。それとか、市民から言われてい
るように、なぜ投票率が低いのかと。これは不思議なんです。専門家に分析してほしい。

でも、それと、京都新聞にたまたま聞かれましたけども、私は就任して、全ての首長、

知事にご挨拶に行きました。もう来ない人もいるんですけど、私は毎回きちっと全てに行っています。新聞社の支局長にも全て挨拶に行っています。京都新聞に出会いました。社説のことは私は触れなかったんですけども、その幹部の方が全く同じことをおっしゃったので、ああ、そうですね、おたくの社説にこう書いていましたねと。でも、やはりこれは今申し上げたように、僅差かどうかというのは謙虚に受けとめて説明は果たしますけども、政策を変えるというところまでは及びませんと言いました。そしたら、その方が何をおっしゃったのか、びっくりしたんですけども、「山仲市長に投票した人でも駅前に病院に反対の人があるかもわかりませんよ」とおっしゃっています。おっしゃったんですね。それを言い出したら、私の対立候補に投票された方でも駅前の病院に賛成の方もどれだけおられたかわかりませんよと。滋賀県の実質トップの新聞社の方です、私は、議論が全くかみ合わなかった。うちの職員とも一緒にいました。今、アメリカの大統領予定者はトランプさんです。票の数は実数が違うとか言われています。見直すとか見直さないとか言われています。でも、ルールをつくって、決めたらそういうことであって、私は駅前の病院を進めさせてもらいますよとはっきり明言して当選しています。

もう反問しませんが、丸山議員は対立候補の応援に行っておられました。私は心配しているんですけども、この間までは賛成でしたけども、今さらこんな質問よりはもう一回風呂敷を広げて聞くという、こんなことをしたら野洲市政は大混乱です。私は何もすがりついてでも市長になりたくなかった。正々堂々と訴えて市長になっています。だから、私が市長になったら進めるという前提になっているわけであって、無責任な提案ですよ。質問か何か、もう一回駅前をゼロベースで見直したらどうですかと、意見を聞くなら幾らでも聞きます。

それとさっきの政策監に何か評価委員会の先かどうかと幾らでも私は情報を出しますし、評価委員会に来ていただいたら、まずは評価委員会の皆さんの意見は聞きます。聞いています。

思い出しましたが、丸山さん、私は予算の調整段階、現段階から公表していたら、丸山さんがおっしゃったんですよ。そんな生を見せてもうてもしやあないから、まずもう部長査定を入れたやつから市民協議してくれと言われて、今はそうしています。私は原課の一番最初の段階から公表していました。言っていることとやっていることが、言っていることと言っていることだけでも違うじゃないかなと思うんですけどね。だから、全て公表いたしますから、何もそんな特別委員会か、評価委員会か、どうでもいいですよ。もう特

別委員会に委員長が、事務局みたいどうでもいいんですよ。特別委員会の委員長と議長が事前に評価委員会で先に案を説明してくれ言われたら、時間さえ幾らでもとってもらったらやりますから。もうそんなことはどうでもいいんですよ。手続の問題じゃない。

丸山さんは今のこの案に賛成なのか反対なのか、そういうことをはっきりした上で質問しないと、もう随分時間が過ぎていますよ。いろんな方から早くやってくれと言われている。私は押し切って、すがってやるつもりないし。手はずを踏んでもむしろ選挙中に言われたのは、市長遅過ぎるわと、もうあんた、見限るわと言われたぐらいに遅いと言われている方であって、それで慌てるつもりはないけども、もう一回はっきり言います。意見が最大限聞きますけども、駅をゼロベースにして聞くということは、これは残念ながらやりません。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） わかりました。いろんなことを一緒にして、予算の話まで一緒にされて、そんなのは一緒ににはできないと私は思っていますけど、だから、私は以前からそういう話し合いというか、聞き合いが大事違うかというて言うていました。だけど、駅前の懇談会をやったけど、どうか、そういうことしか言っていないので、そうじゃなしに、やっぱりいろんな意見を聞く。先ほど言いました郵便局の話でも向こうが言うているから、もうそれで終わりやじゃなくて、やっぱりもっと行ってほしいなと、そういうふうに思っていました。

だから、私は従来から病院は賛成で、駅の方も、駅前でもこれはパッケージで出してきましたから、駅前でもこれはずっといくんやったら、もう仕方ないと。だから、いろんなところへ視察に行ったりして、駅前の利点はこういうところがあるという話はしてきました。しかし、これだけ反対が出とるんであれば、そこのところは駅前でもいいですけども、丁寧に駅前のロータリーの直近でなければならぬという説明をきちっとしなければいけない違うんかなと私と思っとるんです。ここに来て、今、市長の言われる、もう基本設計に入っているんやから云々であれば、やっぱりこんな何ですか、市長への手紙が６月か７月ごろに出てくるようなことにならんように、ここやという、はっきりこういうことでというのはなければならぬいうのをしっかり言うてもらうべきかなと、このように思いますけど、いかがでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 何か戻っているんじゃないですか。当然１００％の方の賛成はこ

れはないと思っていますよ。かといって、無視するわけではない。だから、議会とか市長とか市役所という組織があって、こういうケースを諮ってきているわけであって、私は本当に何回でも市民との懇談会もやっています。病院のあり方のフォーラムもやりました。あのときもたくさん意見をいただいた。これは市長選の前です。そして、私だけが答えるんじゃないしに、専門家にもお答えいただきました。塩田学長もきちっと説明いただきました。12月4日もやりました。そこのアンケートにも、公表はしませんでしたけど、今日出てきて、私は駅前を懸念していたけども、やはり駅前の必要性がわかったというアンケートというか、声も幾つかありました。まだ駅前だったら、これは不便だと、自分にとっては不便だという意見もあったと共に。

それと、あのとき、及川教授だったか塩田学長が言われたのは、やはり駅前に直結という、ここのよさを生かしていくべきだと専門家がおっしゃっています。中途半端にぬれたり、歩いたり、渡るということのリスク、先ほども信号とか横断歩道とか、いっぱいおっしゃっています。もう弱者ができるだけ駐車場からぬれないで渡れる、駅を降りたらすぐに行ける、バスを降りたら行けるというのが今回の基本的な考え方であって、ここは私は譲れないと思っています。せっかくつくるんだったら、なぜ駅に直結かとおっしゃったら、駅に直結といいますか、ロータリー、駅に直結であることが今回の病院のメリットです。

この間も終わってから、いろんな方が話に来られました、私に。私は最後までいたんですけども、本当にぜひこの形でやってほしいと。その後もいっぱい聞いています。ただ、当然反対というのは、これはいろんな観点がありますから、100%賛成はない。その反対をとられて、何かもう一回戻るみたいな議論をされるから私は残念です。前も言いましたように、また関係ないとおっしゃるけども、説得性のために私は材料を言っているわけですよ、予算でも。

クリーンセンターにめでたくできました。8年間かかった。でも、あのときも何回も何回も議論して、大篠原の総会で苦渋の判断をしていただいたんですね。そのときも4割近くの人が反対でした。今でも、やはり納得できんとおっしゃる方もいます。けども、合意形成ができて、なっている。病院も全く同じことで、そういうものだと思います。道路もそう。公共工事というのはそういうことです。答えといたします。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） じゃ、市長は今の駅前のロータリーに直近のところで合意形成を得ているという判断でよろしいですか。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 手続を経ています。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） 何かその辺がよく市民にはわかりにくいところやと思うんですけど、私が言っているのは、先ほど言いましたように、今から市民の意見を聞いてやりよるんなら、確かにおっしゃるとおり遅いです。ですから、駅前をあそこで行くのであれば、ロータリーのところで行くのであれば、ここでいかなければならないというのを、今言われたような雨の日に云々やとか、いろいろありますよ。そういう説明をもっとしっかりしていただいて、これでいきますというような説明をしてほしいと。市民の方の意見もしっかりとその中で聞いて、それにしっかりと答えてほしいと、こういう意味合いで私は言っているのであって、あそこはやめろとか、そういうことではありません。あくまでも意見を聞いたらどうやと、こういうことです。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） それ、私は申し上げました。だから、駅前の、今、基本設計をやっている病院がよりよくなるようなことであれば幾らでもやりますと。でも、さっきそこを確認したら、言を濁されたわけですよ。だから、自治体病院のあり方のフォーラムもその狙いでやっています。その議論をしています。あそこでも出た答えには、あのときは丁寧には私はお答えを引き出すようにしたと思います。４日の日もまさにそうです。都市計画の専門家と医療の専門家に来てもらって、駅前で議論の場を提供しました。

私は選挙をやってから、駅前の自治会がイベントをやっておられて、２階と１階が満杯だったのにたまたま県内の保育所の大会で挨拶に行ったので、ちょうど自治会長——言いましたか——ぜひ上で話ししてほしいとおっしゃったので、もう駅前の自治会の方がほとんどというぐらいに満杯のところでご挨拶と説明をしたけども、拍手をいただきました。

だから、私は決して逃げているつもりはないですよ。選挙中も１週間、それまではあんまり動けなかったけども、徹底的に市内を回らせてもらったり、演説会も開きました、最大限、接点。全然逃げていませんよ。勝手に走っていない。何か丸山さんの話を聞いたら、丸山さんは向こうで頑張っておられたんやから、よくわかっているでしょう。いかにいい選挙ができたか。よその方は争点のある理想的な選挙と言われて、私はあっ、そういうことかなと思ったぐらいで、市外の方は争点があって、健全な選挙、けども、なぜ投票率が低いのかと出会う人は言っていますけど、市民以外は。

ですから、私は丸山さんに言われなくても話し合いの場は幾らでも持ちたい。丸山さんが自治会に呼んでいただいたら行きますし、私は老人クラブとか自治会の総会に物すごい行っていますよ。多分丸山議員よりも日常レベルで出かけていると思っています。いろんな意見を聞いているつもりです。悪いけど、丸山議員にもっと出かけよと言われるような状態ではないと思っています。

それより、やはりきちっとスタンスを決めて、議論することの必要性ですよ。どっち付かずで。だから、あなたは10月23日までは政風会の案に乗っていたはずですから。そこをはっきりやった上で質問すべきですよ。議場は明確に議論する場ですからね。単なるおしゃべりの場と違いますから。

以上、お答えとしておきます。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） これ以上は一緒やと思いますけども、関連して、次のところへいくと、やっぱりそういうところが市長の常に言うている公平、公正、透明性というのが、あれじゃないと思いますよ。その辺は、やっぱり話の、人の意見も聞いて、丁寧に、やっていかなあかん違うのかなと。この前でも何かあれしていますけど、パッケージでものを出してきたり、いろんな批判をしたり、全てが何か圧力をかけているような、私は印象があります。

○市長（山仲善彰君） 休憩。これ、質問ですか。圧力をかけているとか。休憩をとって。

○議長（坂口哲哉君） 続けて。

○4番（丸山敬二君） 病院のこの話が出たとき、先ほども言いましたけど、当初から病院はやるけども、駅前南口やと。駅の南口やと、こういうパッケージの提案やと、どちらかが崩れたら、もうなしやとか、それから言うているのは批判がすごいんですね。今の分でも集会はやっていると言いますが、その場で誰それ議員が反対しているとか、そういうことばかり言うとするんですよ。もっとひどいのは、私も言われましたけど、連合に向かって、市長が。連合に電話して、丸山が反対しとるから何とかせえとか、そんなのはおかしいですよ。

それから、もう議会に対してもいろんな、これはもう圧力みたいな気がするんですね。議会がこれまで実施していた議会報告会、懇談会の議事録、これ、出席した議員とか、議員に示す前に市長が手に入れて、その内容をここで答弁に使うとか。反問の件についても条例の中で何とかしようやということで条例改正をやっていたら、事前に情報を入手して、

あのときは言論の自由を侵害する、憲法違反やとか言って、阻止のための手段を使っとなんですね。

で、これ、先日の、先ほども話がありましたけど、市民が公開質問状を出したときには、そこには公開討論など望んでいないのに公開討論会をやりたいと言っており、要はそういう圧力をかけとるんですね。このときも新聞記事によりますと、記者会見したときに、報道陣から提案者に圧力を与えないかとかいう質問も出ていると。

こういういろんなことがあるんですね。だから、私は、市長はこういった、どちらかというと、全てが何か圧力をかけとるような気がするんです。この答弁の中でも何かそういう気がして、我々も一般質問をするのでも、ちょっと言うたら、もう怖いぐらいですよ。こんなことないです。だから、この辺は市長はしっかりと振り返っていただいて、今後はこんなんでなしに、やはり先ほど言うた、市民もそうですし、議会とも話し合い、聞き合いをやってほしいなと、こういうことを市長にお願いしたいんです。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 私は物事に真剣に取り組む方ですから、弁が過ぎたら謝ります。ただ、事実をゆがめるつもりは一切ない。忘れていたり、錯誤はありますけども。今、丸山議員は何を言われようとしたのか。市民から見たら、議場で、私は議場のよさというのは鉄砲とか刀を持たないで言葉でやることです、誹謗中傷とうそをなくして。語気は強いのはこれは申しわけない。でも、怖いとおっしゃいましたね、怖いと。何が怖いのか。論理が不明快とかうそを言っているとか、これはあり得ます。今、議場で対決していて、対決ですよ。これは二元代表制ですから、市民の負託を受けて、それを怖いと。外での話でなしに、こういうところでやっても怖いとおっしゃった。私は残念であります。そういうつもりで私はやっているつもりはない。穏やかな人には穏やかにやっていますし、野並議員が私と違ったら、結構厳しくはやっていますけども、でも信頼関係でやっているつもりをしていますよ。でも、今、怖いとか、これが論議無用で圧力をかけているということですけど、私は最大限、部長とか教育長も含めて、データと論議をお示しして議論をしているつもりです。今の丸山議員の言を受けて、もう一回どこが至らなかったかは反省をいたしまして、必要なところは次回を変えます。

ただ、もう一つ訂正をいただきたい。連合に圧力をかけたとおっしゃいました。丸山を賛成に向けよと。これは丸山さんが政務調査費で出しておられるはずの丸山さんの広報「丸さんが行く」という冊子に書かれています。市内を配られたらしい。私は市民の方が「市

長、こんなことを書いてあるで」と。今とよく似たことです。市長は圧力をかけたり、やった。その中に丸山議員が病院に反対なのと、私はずっと賛成やと思っていたんですけども、この間、選挙のときに向こうに行かれたから、反対というのがわかったんですけどもね。丸山議員が病院に反対だから、連合、丸山さんに賛成のように働きかけよとおっしゃったわけです。一切やっていない。本当にやっていません。私は連合にそのとき市民から持ってこられたペーパー、これは職員にも渡しています。こういう事実はないよと。連合に確認してもらいました。私も確認しました。そういった事実はないと。本当はないです。それを議事録で残るところで言われる。私もそんなこと、不問に付そうと思っていたんですよ。自分の責任ある広報紙、議会報告にうそを書いてある。本当だったら、だから、今、本当だから、言われたんですね。圧力をかけた言うけど、本当に事実として確認してもらえるわけですね。これがそうだったら、もう一度、また私は本当にかけたんだったら、訂正して謝ります。これが答えです。

で、反問いたします。

○議長（坂口哲哉君） 暫時休憩いたします。

（午後 2 時 5 3 分 休憩）

（午後 2 時 5 4 分 再開）

○議長（坂口哲哉君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

市長、どうぞ。

○市長（山仲善彰君） 質問の中で丸山議員が病院に反対だから、賛成に回るように私が連合に圧力をかけたところで断言されました。その事実についてきちっとここで言っていたきたい。私は人に圧力をかけた覚えは一切ない、議論はしますけども。明確にご回答をお願いします。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4 番（丸山敬二君） 今の反問にお答えをいたします。

これは確かおとしの当初予算の議会、ですから、2 月議会のときに補正で病院の基本設計費用が上がってきました。その中でいろんな、議会としてはどう扱うんやという話になって、結果的にはそれは継続審査になりました。そのやっている最中に連合から電話がかかってきて、市長がこういうのを出そうとしていると。どちらも連合が推薦しているんやから、うまいことしろと。あんばいしろというふうな電話がかかってきました。結果的にはその分はある意味、増税みたいな話が出てきて、増税がセットになるぜというこ

とで、議会では確か反対になったと思います。

で、あと連合との話で、連合のこの第3区地協の方の議長と、事務局長も話ししましたが、いろいろ話ししている中で、じゃ、その連絡というか、電話はどこからもらったんや言うたら、当然、彼らは言わないんですね。それで、私も長い間わからなかったんですけど、こんな議案を、提案を出すということを連合が知っているということは市長からの情報しかないなと思って、連合にそれを言ったのが、名前は言わないので、合うてるか違うかだけを言うてくれと言うたら、市長かと聞いたら、そうやと言うたわけですよ。だから、私は連合からそういうんで言うて、市長は連合経由で私にそういう圧力をかけてきたと。連合はその中でいろいろ議論して、じゃ、連合、あんたらの言うことは市長の提案することを追認せえということかと聞きました、私。だから、連合ははっきりそうやと言いました。

以上、これがそこまでの事実です。

市長も今、反省はしてくれると。全面的にはとは言わなんだけど、反省すべきは反省すべきのような言葉があったので、それをお願いするとしまして、今言いました、先ほど言いましたね。山川さんの問題なんですけど、きのう毎日新聞に市が個人情報漏らすという記事が出ておりました。確かに私もあれメールをもらったら、市長が発信した文章に山川の住所、氏名が入っておりました。それが各議員に流れております。これは明らかに私は情報漏えいで、市の個人情報保護条例に違反していると思いますが、市長、これ見解はいかがでしょうか。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） 新聞に載ってから、私は事実を実質知りました。きのう、経緯を全部整理してもらいました。まず、一般市民に公表している分は氏名は伏せてあります。聞きましたら、議員さんとマスコミということであるのと、この公開質問状というのは先に公開されていますし、この方は自分の事務所でこの紙を示して、記者会見をしておられるわけですね。今日の議会も触れたように、私が知るより先にマスコミの方が電話をして、市長の見解はと言ってこられたぐらいに周知の事実になっているわけです。さっきの公開は何も嫌がらせでやったわけと違って、私は公開記者会見、不思議に思ったのは、個人の記者会見になぜマスコミの方が集まるのか。これはマスコミの方に聞いたら、やはり監査委員だったという法的性格だから出かけたというのが一部のマスコミからもありました。ということからして、今回議員さんとマスコミには一定の情報の取得をされるという

前提があったので、職員は配ったということであります。だから、私はそれをきのう協議をして、確認をいたしました。

その間に私が文章を練っていますと、今日のご指定でまた行き違いがあるといけないので、回答文を今策定していきまして、ほぼでき上がっているはずですので、今日の5時台に、ご指定の時間に職員がじきじきお届けをするのと同時に議員の皆さん、マスコミに公表しようというスケジュールで進んでいます。

もう一度この文章をその議論のときに読んでいましたら、最後、これ皆さん、見ておられますね。皆さん、全部名前入りが入っています。一般市民には行っていません。法人という性格と情報を持たれる方が一定の守秘義務を持っておられるという前提で配ったという認識です。それとあわせて論理しては、どういうふうにしているかといいますと、なお、この公開質問はご回答いただいた後、質問とご回答をあわせて報道機関に公開いたしますと共に市民に対しても公表する予定であります、これと回答を公表すると自ら言うておられるんです。これですよ。

（「映っていますよ、テレビ」の声あり）

○市長（山仲善彰君） 私は丸山議員にしているので。だから、職員がそういう理解をしたということについて、私は妥当な判断、もちろん個人情報というのは画一的にされる部分と、境界領域があって、今回の場合、この方は自ら公開質問された。そして、潜在的な立場としては元監査委員とはっきり言うておられる。だから、私はびっくりしたので、新聞を読んで公開で議論しましょうと、その方がいいかなと思ったわけであって、そういう前提でのことなので、この方の個人情報というか、住所だけが書いてあるわけですけども、番地入り、本当に保護されるべき利益なのか。この方は、監査法人の代表ですから、登記を上げれば、誰でも住所が見れます。それと、きのう夜家で調べていましたら、この方は県内の公益法人の監事もおられます、文化とかに関わる。ここからも住所が出る。公人的な性格を持っておられるので、今回、もちろん弁護士に相談するとおっしゃっているので、謙虚に丁寧に対応させていただきますけども、今回、出ても出なくてもというレベルで、何も出すことの合理性があったかどうかですけども、議員さんですから。議員さんに出すというのは主です。議員さんに出すので、あわせてマスコミに出した段階で担当者段階で出したということについては、現時点では今日の新聞に職員がコメントして、問題ないという認識を回答していますけども、それはきのうの夜、庁内で議論して、一定弁護士さんとも相談をしましたけども、弁護士さんの見解は、私が申し上げましたように若干

グレーゾーンは存在するけれどもというアドバイスもありましたが、市としては、今回のケースに限っては今回の対応というのは是としようというふうに判断をしております。

これは決して政務調査費の請求をされている方の氏名を市長が出せとか言ったのとは全く違います。私はそういう判断をしていませんが、組織的な判断をしたことについては、これは、人権とか、これは当時者が判断されることですから、そこを丸山さんお得意の強権的に要求をと、訴訟を抑えさせようとは思いませんけども、市としては、議員さんとマスコミという前提で出したという理解をしております。

以上、お答えいたします。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○4番（丸山敬二君） 長々といきさつまでしゃべってもらいましたが、そんなことじゃなくて、私は野洲市個人情報保護条例に違反しているんだ、これに触れるん違うかと聞いているんですよ。ここの見解を聞いているんです。第3条に、「実施機関は、この条例の目的を達するため、個人情報を収集し、保有し、又は利用するに当たっては市民の基本的な人権を尊重するとともに個人情報の保護について必要な措置を講ずるとともに、あらゆる施策を通じて個人情報の保護に努めなければならない」と書いてあるんです。

で、実施機関の職員は仕入れた情報をみだりに漏らしたはいかんと、こうなるとるんですよ。そやから、議員に出してもこれは明らかに個人情報を収集しているところが議員に出したということやから。この中にも他にもありますよ、何条でしたっけ。提供の制限というところ、第9条のところにも書かれていますよ。だから、この辺に抵触するんではないかと私は聞いとるんですよ。

出し方については、それは市長のおっしゃるとおり、監査委員の承認を得るいうときには確かそういったところも住所も付いていたような気がします、生年月日まで入っている。そういった意味でいけば、公人として言うてあるとか、そういうことではいいんですけど、この条例に触れるんじゃないかなと私は聞いているんです。

○議長（坂口哲哉君） 市長。

○市長（山仲善彰君） いや、経緯をお話ししないと、私は物事の事実と情報については背景、経緯をお示ししますと言っていますので、申し上げました。

最終的な法的解釈、私は有権解释权を持っていませんけども、あえて野洲市の公文書の公開の制度でいきますと、第7条第2項になりますね。まず2項のただし書きに、次に掲げる情報を除くと書いていまして、法令等の規定により、または慣行として公にされ、ま

たは公にすることが予定されている情報は除くと書いていますので、これに該当するかしないかは、これは法的な判断をするしかないんですが、市としては、ここで読み取れる可能性もあるのではないかとというのが現段階での判断であります。

そういう意味で、ここのただし書きのところがあるので、背景とか状況とか、かなり特殊なケースで、私はそんな、びっくりしたんですよ。やめた監査委員がなぜ公開質問状を出すのか。マスコミには意見が合わなかった。これは全くないです。

○４番（丸山敬二君） それは関係ない。

○市長（山仲善彰君） 違います。背景を言っているわけであって、はっきり言うとかないと、あなたも関係ない連合まで行ったわけだから。

○４番（丸山敬二君） 関係ないって、事実で言うから言うたんじゃないですか。

○市長（山仲善彰君） 全くそういうそぶりもなかった方が市の病院計画に疑義があるからというのを後追い説明で言っておられることに私は何か構造的なものがあるのか、何か不思議であります。だから、そういうことからすると、何らかの背景があって、公開質問、公開で発表、そしてもらったらすぐに公表しますと書いてある文書に対する手続であるので、今回に限って、こういうことも市としてはあり得る。ただ、相手さんの判断はまた別だとは思いますがともというのが私の見解です。

○議長（坂口哲哉君） 丸山議員。

○４番（丸山敬二君） 今のは情報公開請求の話ですか。第７条云々いうやつは。

○市長（山仲善彰君） 公文書の公開です。

○４番（丸山敬二君） 公文書の公開。それよりか、個人情報の保護条例というのは、公文書は広いですけど、個人情報というのは、この条例は個人情報に限ったやつを書かれているんですから、ここではだめですよとなっているので、私は明らかにこの条例に違反していると思います。もうこれ以上ここで言うと、また他にも言いたいことあるんですけど、これだけにしておきます。

以上で終わります。

○議長（坂口哲哉君） 以上で、通告による一般質問は終了いたしました。

本日の日程は全て終了いたしました。

お諮りいたします。明８日から１２月２１日までの１４日間は休会といたしたいと思います。これにご異議ございませんか。

（「異議なし」の声あり）

○議長（坂口哲哉君） ご異議なしと認めます。よって、明 8 日から 12 月 21 日までの 14 日間は休会することに決定いたしました。

なお、念のために申し上げます。来る 12 月 22 日は午後 1 時から本会議を再開いたします。

本日はこれにて散会いたします。（午後 3 時 08 分 散会）

野洲市議会会議規則第127条の規定により下記に署名する。

平成28年12月7日

野洲市議会議長 坂口哲哉

署名議員 岩井智恵子

署名議員 高橋繁夫